取扱説明書

VHF/UHF DUALBAND FM TRANSCEIVER

IC-P7

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-P7をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-P7は、144/430MHz帯の2バンド+0.495～999.990MHzの広帯域をカバーする、超小型・軽量のFMハンドヘルドトランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

本書をお読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOM、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標及び登録商標です。

D-STARは、社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

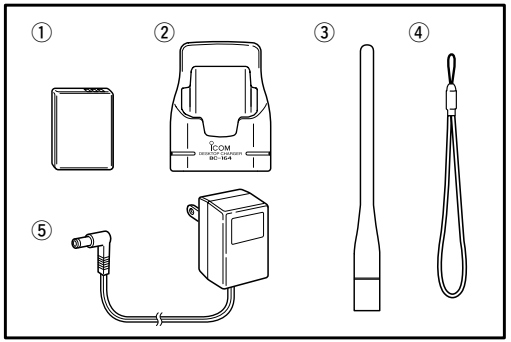
アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。

ユーザー登録について

付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投稿してください。

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要となります。

付属品



① リチウムイオンバッテリーパック ……1
② 急速充電器 ……1
③ アンテナ ……1
④ ハンドストラップ ……1
⑤ ACアダプター ……1
- 取扱説明書
- 保証書
- 愛用者カード

個人情報の利用について

弊社は、個人情報を利用する場合は、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内にて利用し、範囲を超えての利用はいたしません。

弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ(http://www.icom.co.jp)をご覧ください。

[ご参考]梱包箱などはアフターサービスを依頼するときなどのために、保管されることをおすすめします。

もくじ

はじめに ―― i
もくじ ―― ii
安全上のご注意(必ずお読みください) ―― v
■ 無線機本体について …… v
■ バッテリーパックについて …… vii
■ 充電器について …… ix
1. バッテリーパックについて ―― 1
■ バッテリーパックの取り付けかた …… 1
◇カバーをはずす/バッテリーパックを入れる …… 1
◇運用の目安 …… 1
◇残量表示について …… 1
■ 充電時のご注意 …… 2
■ 充電のしかた …… 3
2. ご使用の前に …… 4
■ 付属品の取り付けかた …… 4
◇アンテナを取り付ける …… 4
◇ハンドストラップを取り付ける …… 4
3. 各部の名称と機能 ―― 5
■ 上面/側面/前面パネル …… 5
■ 表示部 …… 9
4. 基本操作のしかた ―― 11
■ アマチュアバンドを受信してみる …… 11
◇アマチュアバンド(430Mバンド)を選択する …… 11
◇音量を調整する …… 11
◇受信モード(電波型式)を設定する …… 12
◇スケルチレベルを調整する …… 12
◇周波数を設定する …… 13
■ FM(ラジオ)放送を受信する …… 13
■ TV(テレビ)放送を受信する …… 14
◇受信のしかた …… 14
◇TVスキップスキャンのしかた …… 14
◇手動でスキップを指定する …… 15
■ 受信バンド(周波数帯)について …… 16
◇受信バンドの選択 …… 16
■ VFOモードとメモリーモードの切り替えかた …… 17
◇VFOモードにするには …… 17
◇メモリーモードにするには …… 17
◇メモリーモード時の表示切り替えについて …… 17
■ 周波数を大きく変えるときは …… 18
◇周波数ステップを変更する …… 18
■ チューニングステップを変える …… 19
■ アッテネーター(ATT)機能について …… 19
■ モニターのしかた …… 20
◇モニター機能を変更する …… 20
■ [DIAL]と[▲]/[▼]の割り当て機能を反転 …… 21
■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた …… 21
■ 送信のしかた …… 22
◇アマチュアバンドの運用 …… 22
◇運用バンドと周波数を設定する …… 22
◇送信出力を設定して送信する …… 22
5. レピータ/デュプレックスの操作 ―― 23
■ オートレピータ機能での交信 …… 23
◇レピータ周波数を設定する …… 23
◇レピータにアクセスする …… 24
◇オートレピータ機能の解除のしかた …… 24
◇送信周波数のチェック …… 25
◇送信時のオフバンド表示について …… 25
■ デュプレックスの運用 …… 25
◇オフセット周波数を設定する …… 25
◇デュプレックスモードを設定する …… 26

もくじ

◇交信する…… 26
◇送信時のオフバンド表示について…… 26
6. メモリーの使いかた —— 27
■ メモリーモードについて …… 27
■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた …… 28
◇[DIAL]ツマミで呼び出すには …… 28
◇10CHステップで呼び出すには …… 28
◇書き込んでいないM-CHを呼び出すには …… 28
■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた … 29
◇M-CHへの書き込みかた …… 29
◇書き込み後のオートインクリメントについて…… 30
◇メモリー内容をVFOに転送して使うには …… 30
◇メモリー内容を他のチャンネルへ複写するには…… 31
■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する 31
◇M-CHとバンクチャンネルの使用例…… 31
◇編集のしかた…… 32
■ メモリー/バンクネームの使いかた …… 33
◇メモリー/バンクネームを入力する …… 33
◇表示を切り替えるには…… 35
■ メモリークリア(消去)のしかた …… 36
◇メモリー内容を消去する…… 36
7. スキャンのしかた —— 37
■ スキャンについて …… 37
◇VFOモードで行うスキャン …… 37
◇メモリーモードで行うスキャン…… 37
◇空線キャンセラー機能を設定する…… 39
◇MSK機能を設定する …… 39
■ VFOスキャンのしかた …… 40
◇VFOスキャンの操作 …… 40
■ オートメモリーライトスキャンのしかた …… 41
■ メモリースキャンのしかた …… 43
◇メモリースキャンの操作…… 43
◇スキップチャンネルの指定と解除のしかた…… 43
■ メモリーバンクスキャンのしかた …… 44
◇フルバンクスキャン/バンクリンクスキャン/
バンクスキャンの操作…… 44
■ メモリーバンクのリンクについて …… 45
◇メモリーバンクの設定…… 45
◇メモリーバンクのリンク設定…… 45
8. プライオリティスキャンのしかた —— 46
■ プライオリティスキャンについて …… 46
◇プライオリティベル機能について…… 46
■ VFO周波数を受信中にM-CHを受信する …… 47
■ VFOスキャン中にM-CHを受信する …… 48
■ VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する …… 49
■ VFO/メモリー両スキャンで受信する …… 50
■ TV-CHを受信しながらM-CHを受信する …… 51
9. SETモードの設定 —— 52
■ SETモードの設定方法 …… 52
◇SETモードにする …… 52
◇EXPAND(拡張機能)の選択 …… 52
■ 設定項目の一覧表 …… 53
◇SETモード項目 …… 53
◇EXPAND SETモード項目 …… 53
■ SETモードの設定項目 …… 54
■ 設定項目の詳細について …… 55
10. トーン機能/DTCS機能について —— 62
■ トーンスケルチ機能の使いかた …… 62
◇トーン選択の設定をして交信する…… 63
◇待ち受け受信のときは…… 63

■ DTCS極性反転機能について …… 64
■ トーンスキャンのしかた …… 65
11. その他の便利な機能 —— 66
■ LCDバックライト調整について …… 66
■ LCDコントラスト調整について …… 66
■ ビープ音について …… 66
■ ダイヤルスピード機能の使いかた …… 66
■ キーロック機能の使いかた …… 67
■ パワーセーブ機能の使いかた …… 67
■ オートパワーオフ機能の使いかた …… 67
12. ご参考に —— 68
■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には …… 68
◇オールリセットのしかた…… 68
◇パーシャルリセットのしかた…… 68
■ クローニングについて …… 69
■ 故障かな？と思ったら …… 70
■ 故障のときは …… 71
13. 定格 —— 72
■ 一般仕様 …… 72
■ 送信部 …… 72
■ 受信部 …… 72
■ 急速充電器(BC-164)の定格について …… 73
14. 免許の申請について —— 74
■ 無線局事項書の書きかた …… 74
■ 工事設計書の書きかた …… 75

■ バンドの使用区別(バンドプラン)について …… 77
15. 別売品について —— 78
■ 別売品リスト …… 78
操作ガイド …… 80

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■ 無線機本体について

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。
- **電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。**
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- **運転中は、本機の操作をしないでください。**
  交通事故の原因になります。
- **外部アンテナを使用しているときに、雷が鳴り出したら本機の電源を切り、外部アンテナを本機から外してください。**
  火災や感電、故障の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
  交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
  運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- **指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続しないでください。**
  感電、故障の原因になります。
- **アンテナの端やストラップを持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。**
  本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。

■ 無線機本体について(つづき)

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターに連絡してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
  変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **マイクロホンを接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
  電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  変色、塗料がはげる原因になることがあります。
  普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- **製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。**
  落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- **製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
  けが、故障の原因になることがあります。

⚠ モービル運用上のご注意

- **安全運転のため、走行中に本機を操作しないでください。**
  操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてください。
- **安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。**
  一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホン等を使用することが条例で規制されています。
- **本機を車に取り付ける場合、安全運転に支障がないように取り付けてください。**
  また、エアバック装備車に本機を取り付ける場合、このシステムの動作に影響を及ぼす取り付けかたはしないでください。
- **本製品をハイブリッドカー(ガソリンエンジンと電気モーターを交互に使用することで、エネルギー消費を大幅に減らした自動車)でご使用になる場合は、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。**

■バッテリーパックについて

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎バッテリーパックは、火の中に投入したり、加熱しないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所で充電しないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損して、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、＋60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類とバッテリーパックを一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- バッテリーパックは、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器で使用したり、それ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎バッテリーパックの使用中や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
そのまま使用すると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎**バッテリーパックを電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置かないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎**指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**バッテリーパックから漏れだした液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎**バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

◎**赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。**
- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。
- バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置いたり、落下させないでください。
- 水や海水につけたり、ぬらさないでください。
- 分解や改造をしないでください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎**下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**
- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックの残量が約半分になってから、無線機から取りはずして保管してください。
- −10℃～+60℃以外の環境で使用しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

◎**清掃には、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。

◎ **+5℃～+35℃以外の環境では充電しないでください。**
周囲温度が**+5℃～+35℃**以外の環境になる場所では、充電されないことがあります。

◎ **無線機を長期間(約1年)使用しない場合はバッテリーパックを取りはずし、−20℃～+20℃で湿気の少ない場所に保管してください。**
3ヶ月間ほど使用しない場合は、−20℃～+35℃で湿気の少ない場所に保管してください。
1ヶ月間ほど使用しない場合は、−20℃～+50℃で湿気の少ない場所に保管してください。
電池の発熱、サビの原因になることがあります

使用後はリサイクルへ

この機器は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は破棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

■ 充電器について

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **付属の充電器はリチウムイオンバッテリーパック専用の充電器です。**
  指定以外の充電には使用しないでください。
  電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- **必ず弊社指定のACアダプターを使用してください。**
  他の電源で使用すると、火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **この製品を分解、改造しないでください。**
  火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。**
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
  火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。**

■充電器について(つづき)

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

- **接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。**
  傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- **充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
  感電、けがの原因になります。
- **ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。**
  感電の原因になります。
- **接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐにACコンセントからACアダプターを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターに連絡してください。

⚠注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- **充電またはバッテリーを無線機本体に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。**
- **5℃以下または35℃以上では充電しないでください。**
  周囲温度が+5℃～+35℃以外の環境になる場所では、充電されないことがあります。
- **湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。**
  火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
  充電器の火災、故障、誤動作、変形、変色、または電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- **ACアダプターを抜き差しするときは、コードを引っ張らないでください。**
  火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください。
- **充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。**
  火災、発熱の原因になることがあります。

■充電器について(つづき)

● **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

その他取り扱い上のご注意

- バッテリーをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックを極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- バッテリーパックが満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
  故障、破損の原因になることがあります。
- 室内で送信すると、電波障害を起こすことがあります。
  室内で送信するときは、外部アンテナをご使用ください。
- 付属のアンテナは、トランシーバーを手で持ったときに特性がよくなるように設計しています。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

電波法上のご注意

◎ 電波法第59条で『**特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない**』と通信の秘密に関して定められています。
本機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考　無線局運用規則　第8章　アマチュア局の運用

第258条　アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。
以下省略

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検し、障害に応じて弊社サポートセンターやお買い上げの販売店などに相談し、適切な処置をしてください。
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。
日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)、および(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA)
〒170 - 0002　東京都豊島区巣鴨1-10 - 5　第2川端ビル
TEL 03 - 3944 - 8611

(社)日本アマチュア無線連盟 (JARL)
〒170 - 8073　東京都豊島区巣鴨1-14 - 5
TEL 03 - 5395 - 3111

各バンドのおもな特徴と楽しみかた

IC-P7はそれぞれVHF(144MHz帯)/UHF(430MHz帯)による電波伝搬の特徴を生かした交信が楽しめます。
VHF帯/UHF帯の電波は直進性が高く、建物や山岳などによる減衰や反射で電波の強度が変化し、通信状態に影響を与えます。
通信状態への影響はバンドによっても異なり、ビルのなかや市街地などでは影響を受けやすく、通信距離が大きく変化する場合があるので、相手局に対して見通しのよい場所で運用することをおすすめします。

◇144MHz帯の特徴

144MHz帯はVHF帯のメインストリートと言われています。
全国どこへ移動しても交信相手には困りません。また、仲間とのラグチューや連絡用としても役立ちます。

◇430MHz帯の特徴

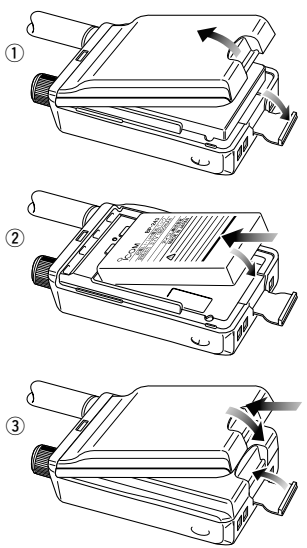
レピータを使用すれば、見通し外の局とも交信できるのが430MHzです。
ハンディー機でも比較的に遠方のレピータにアクセスできるので、交信範囲を大きく広げます。
※本機では、D-STAR®レピータにアクセスできませんので、ご注意ください。

1　バッテリーパックについて

■ バッテリーパックの取り付けかた

◇ カバーをはずす/バッテリーパックを入れる

① 止め具を矢印の方向にはずして、本機背面のカバーを取りはずします。
② 付属のリチウムイオンバッテリーパックを下図のように収容します。
　取り付ける向きにご注意ください。
③ カバーを取り付けて、止め具でカバー固定します。



◇ 運用の目安

- **付属のリチウムイオンバッテリーパック電池(3.7V 1800mAh)は、約20時間運用できます。**
- **テレビやラジオ放送を連続受信した場合、約15時間運用できます。**

※運用時間は、送信5、受信5、待ち受け90(パワーセーブはON)を繰り返し運用した場合の目安です。
※ なお、上記の運用時間は目安であり、使用条件、充電の状態によって変わります。

◇ 残量表示について

表示部の電池残量表示“▭”は、バッテリーパックの残量に応じて変化します。
※電池残量表示が点滅する前に、充電することをおすすめします。

表 示	バッテリーパックの状態
表示なし	十分に容量があります。
▭ 点灯	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
▭ 点滅	すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。
「LOW」点灯	ほとんど容量がなく、運用することができません。

【ご参考】
接触不良を防ぐために、バッテリーパックの電源端子を乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

■バッテリーパックの入れかた(つづき)

【ご注意】
- 必ず電源を切ってから電池を交換してください。
- 電池は、プラス“⊕”とマイナス“⊖”をまちがえないように注意して入れてください。
- リチウムイオン電池は、当社指定のものをご使用ください。
- 長時間使用しないときは、電池を本機から外してください。電源を切っても、常に微電流が流れています。
- 電池の接触端子を定期的に清掃することにより、接触不良を防止できます。
- リチウムイオン電池にも寿命があります。
  充電しても使用時間が極端に短くなったときや、電源が入らなくなったときは、新しいリチウムイオン電池をご購入ください。

〔お願い〕
使用済みの充電式電池は、プラス“⊕”とマイナス“⊖”の端子にテープなどを貼り絶縁してから、充電式電池のリサイクル協力店にご持参ください。

■ 充電時のご注意

- 充電は、必ず指定の充電器をお使いください。
- できるだけ常温(20℃前後)で充電してください。
  周囲温度が+5℃～+35℃以外の環境になる場所では、正常に充電されないことがあります。
- バッテリーパックが満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長時間使用しなかったときは、ご使用の前に必ず充電してください。
- 充電器およびバッテリーパックの端子をショートや分解しないでください。感電のおそれがあります。
  また、火や水のなかに入れないでください。
  爆発のおそれがあります。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
  ショートすると電池の破裂、発熱、液もれの原因となり、危険です。
- バッテリーパックは消耗品ですから、充電/放電を繰り返すと運用時間が短くなります。
  運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。
- 充電器を使用しないときは、コンセントからはずしてください。
- リチウムイオン電池は、継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
  なお、満充電した直後に再充電をしないでください。

1 バッテリーパックについて

■ 充電のしかた

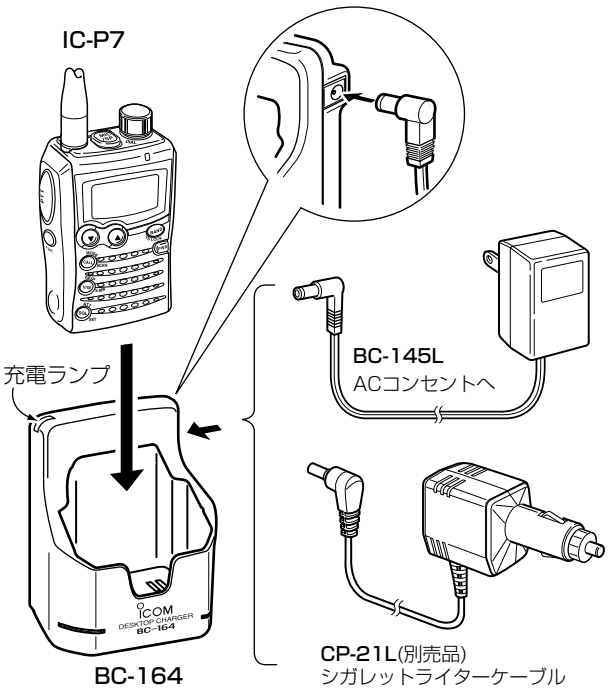
付属品のリチウムイオン電池は、出荷時十分に充電されていません。必ず充電してから、ご使用ください。

- **BC-164(付属品)を使用して充電してください。**
- **充電するときは、必ず本体の電源を“OFF”にしてください。**
  BC-164はリチウムイオン電池専用の急速充電器です。
  リチウムイオン電池を無線機に入れた状態で充電してください。

◇ 充電ランプについて

充電中は橙色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。
※充電中に赤色の点滅が続くときは充電できません。
　このような場合は71ページを参照してください。

- **充電時間の目安**
  BP-243(付属品のリチウムイオン電池)：約2時間40分

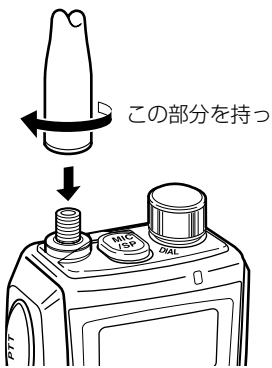


【ご注意】
- 充電するときは、必ず本体の電源を**“OFF”**にしてください。
- AC 100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- リチウムイオン電池以外の充電はできません。
- 弊社指定の充電器以外は絶対に使用しないでください。
  故障の原因となります。

■ 付属品の取り付けかた

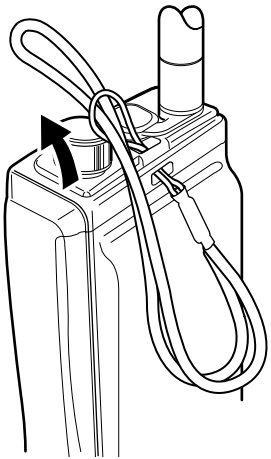
◇ アンテナを取り付ける

付属のアンテナでも十分に受信感度を得られますが、低い周波数帯や受信する場所により受信しにくい場合があります。
市販のアンテナを使用すると受信性能がさらによくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。



《ご参考》
アンテナコネクターはSMA型となっています。
BNC接栓のアンテナを使用される場合は、別売品のAD-92SMA(SMA→BNC変換コネクター)をご利用ください。

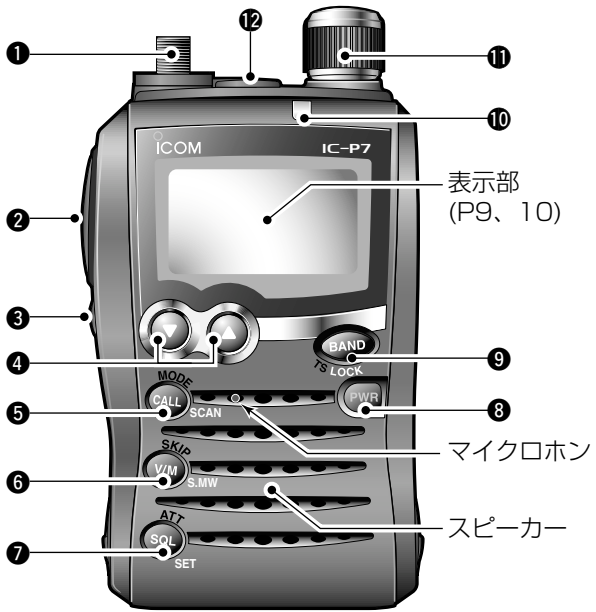
◇ ハンドストラップを取り付ける



ご使用時や持ち歩くときに、手首に通してお持ちいただくと、落としにくくなります。

3 各部の名称と機能

■ 上面/側面/前面パネル



❶ アンテナコネクター

付属品のアンテナを接続するコネクターです。(☞P4)

※SMAコネクターを使用すれば、外部アンテナを使用できます。BNC接栓のアンテナを使用される場合は、別売品のAD-92SMA(SMA→BNC変換コネクター)をご利用ください。

❷ PTT(送信)キー(☞P22)

➥押している間は送信状態、離すと受信状態に戻ります。

➥**[FUNC]**を押しながら**[PTT]**を短く押すごとに、送信出力のHigh/Lowを切り替えます。(☞P22)

❸ [FUNC]キー

先に**[FUNC]**を押して、次に該当するキーを押すことにより、各種諸機能が動作します。

●VFOモード時

➥**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、設定している周波数ステップで周波数をアップまたはダウンします。
(初期設定値/1MHzステップ)
※この周波数ステップは、SETモードで変更できます。(☞P19、56)

➥**[FUNC]**を押しながら**[▼]/[▲]**を短く押すと、**[DIAL]**と**[▼]/[▲]**に割り当てている機能を反転します。(☞P21)

➥**[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT･SET)を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を**"ON/OFF"**します。(☞P19)

●メモリーモード時

➥**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。(☞P28)

❸ [FUNC]キー(つづき)

➥[FUNC]を押しながら[BAND](TS･LOCK)を押すと、「メモリーモード」→「B NAME(バンクネーム)」→「M NAME(メモリーネーム)」→ 「CH--OOO(チャンネル表示)」と表示を切り替えます。(☞P35)

●TV(テレビ)モード時

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、すべてのTV-CH(1～62)をアップまたはダウンします。(☞P14)

❹ 音量[▼](ダウン)/[▲](アップ)キー

➥音量をアップまたはダウンします。

※[▼]または[▲]を押しながら[DIAL]を回しても音量を調整できます。(☞P11)

➥[FUNC]を押しながら[▼]/[▲]を短く押すと、[DIAL]と[▼]/[▲]に割り当てている機能を反転します。(☞P21)

❺ [CALL](MODE･SCAN)キー

➥キーを短く押すごとに、コールチャンネル/VFOモード(またはメモリーモード)を切り替えます。(☞P21)

➥キーを長く(約1秒)押すと、各種スキャンの選択状態になります。(☞P37)

※[DIAL]を回すと、各種スキャンを選択します。

※再度キーを押すと、選択したスキャンがスタートします。

➥[FUNC]を押しながら[CALL](MODE･SCAN)を短く押すごとに、モード(電波型式)を切り替えます。(☞P12)

※押すごとに、AUTO→FM→WFM→AMとモード(電波型式)を切り替えます。

➥[FUNC]を押しながら[CALL](MODE･SCAN)を長く(約1秒)押すと、トーンスキャンをスタートします。(☞P65)

❻ [V/M](SKIP･S.MW)キー

➥キーを短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。(☞P17)

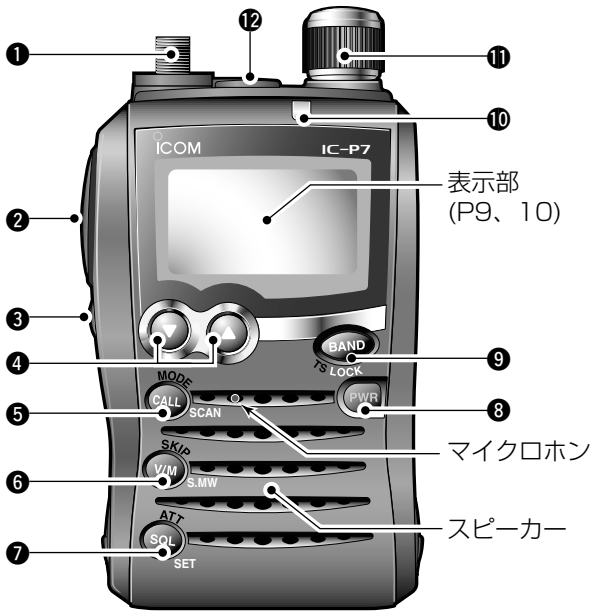
➥キーを長く(約1秒)押すと、セレクトメモリーライト状態にします。(☞P29)

※メモリー表示部が点滅状態となり、[DIAL]ですべてのM-CHを呼び出すことができます。

➥[FUNC]を押しながら[V/M](SKIP･S.MW)を短く押すごとに、PSKIP(周波数スキップ)を"ON"/"OFF"します。(☞P40)

➥VFOスキャン中[FUNC]を押しながら[V/M](SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押すと、SKIP MW(周波数スキップ自動書き込み)をします。(☞P41)

■ 上面/側面/前面パネル(つづき)



❼ [SQL](ATT・SET)キー

➥キーを押している間、スケルチを開いて受信します。(モニター機能)(☞P12、59)
※キーを押しながら[DIAL]を回すと、スケルチレベルを調整できます。(☞P12)

➥[FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を"ON/OFF"します。(☞P19)

➥[FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押すと、各種運用条件を設定するSETモード状態になります。(☞P52)

❽ [PWR](電源)キー

長く(約1秒)押すごとに電源を"ON/OFF"します。(☞P11)

❾ [BAND](TS・LOCK)キー

●VFOモードのとき

➥キーを短く押すと、運用バンドを切り替えます。(☞P16)

➥[FUNC]押しながら[BAND](TS・LOCK)を短く押すと、チューニングステップ(TS)の設定状態になります。(☞P19)
※[DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。

❾ [BAND](TS·LOCK)キー(つづき)

● **メモリーモードのとき**

➥メモリーモードの表示機能を切り替えます。(☞P35)

押すごとに、**「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」**と切り替えます。

※**[BAND]**(TS·LOCK)キーを押しながら**[DIAL]**を回して切り替えができます。

➥**[FUNC]**を押しながら**[BAND]**(TS·LOCK)を長く(約1秒)押すと、ダイヤル/キーロック機能を**"ON/OFF"**します。(☞P67)

⓾ 送信/受信表示ランプ

送信時は赤色、信号を受信中は緑色に点灯します。

⓫ [DIAL](ダイヤル)ツマミ

VFOモードでは周波数の設定、メモリーモードではM-CHを呼び出します。(☞P13、28)

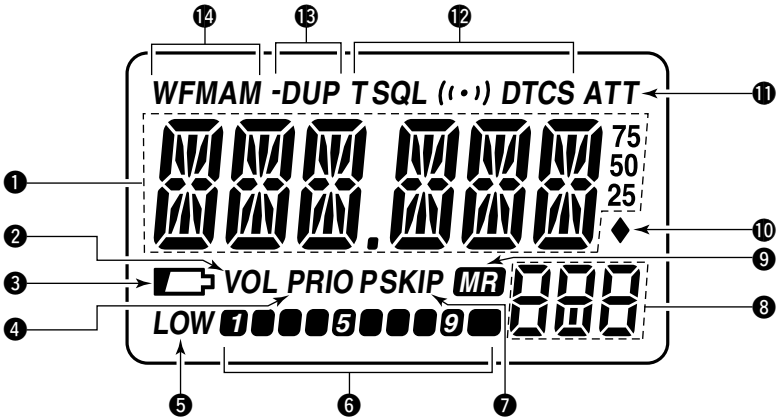
また、スキャン方向の変更などにも使用します。(☞P38)

⓬ SP(スピーカー)/MIC(マイクロホン)ジャック

別売品のスピーカーマイクロホンやイヤホンを接続するジャックです。

※別売品については78ページをご覧ください。

■ 表示部



❶ 周波数表示部
受信周波数、メモリー、バンクネーム、SETモードの内容などを表示します。
SETモード時は設定項目と設定内容を表示します。(☞P52)

❷ ボリューム/ダイヤル反転機能表示部
[▼]/[▲]の音量調整と[DIAL]の周波数調整に割り当てている機能を反転していることを表示します。(☞P21)
点灯時は、[▼]/[▲]が周波数調整、[DIAL]が音量調整となります。

❸ 電池充電時期マーク表示部
電池の残量が少なくなり、充電時期になると電池マークが点灯します。(☞P1)

❹ プライオリティ表示部
プライオリティスキャンが動作中のときに点灯します。(☞P46)

❺ 送信出力表示部
送信出力を2段階で表示します。LOWパワー選択時に点灯します。(☞P22)

❻ S/RFメーター表示部
受信時は、受信した信号の強さを表示します。(☞P13)
送信時は、RFインジケーターを表示します。(☞P22)

❼ スキップ表示部
スキップ機能を表示します。(☞P43)
- **"SKIP"**点灯　：メモリースキップを表示
- **"PSKIP"**点灯　：スキップスキャンを表示

❽ メモリー表示部
メモリーバンク、メモリーチャンネル番号、ダイヤル/キーロック機能動作、SETモード項目などを表示します。

❾ メモリーモード表示部
メモリーモード状態を表示します。(☞P28)

❿ オートメモリーライト表示部
オートメモリーライトスキャンで書き込んだチャンネルであることを表示します。(☞P41)

⓫ アッテネーター表示部
アッテネーター(ATT)機能が選択されていることを表示します。(☞P19)

⓬ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ表示部
トーンスケルチ/デジタルコードスケルチなどに設定されている機能を表示します。(☞P63)
- **"T"**点灯　：レピータトーン機能の動作中を表示
- **"T SQL"**点灯　：トーンスケルチ機能の動作中を表示
- **"T SQL**((•))**"**点灯　：CTCSSによるポケットビープ機能の動作中を表示
- **"DTCS"**点灯　：DTCSコードスケルチ機能の動作中を表示
- **"**((•))**DTCS"**点灯　：DTCSによるポケットビープ機能の動作中を表示
- **"SQL"**点灯　：空線キャンセラー機能、MSK機能の動作中を表示

⓭ デュプレックス表示部
デュプレックスモード(−DUP/+DUP)を選択していることを表示します。(☞P26)

⓮ MODE表示部
受信モード(電波型式)を表示します。(☞P12)

【ご参考】
電源を**"ON"**にしたとき、オープニングメッセージ(「ICOM」に続き、「IC-P7」)が表示されます。
[FUNC]を押しながら電源を**"ON"**にすると、オープニングメッセージを表示しません。
また、オープニングメッセージ表示中に**[FUNC]**を押すと、オープニングメッセージの表示が途中で終了します。

4 基本操作のしかた

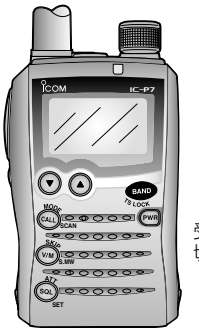
■アマチュアバンドを受信してみる

◇ アマチュアバンド(430Mバンド)を選択する

① [PWR]を長く(約1秒)押して、電源を"ON"にします。
電源を"ON"すると、電源を切る前の状態を表示します。
※電源を"OFF"にするときは、再度[PWR]を長く(約1秒)押します。

② [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

③ [BAND](TS･LOCK)を押して、アマチュアバンド(430Mバンド)を選択します。
※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR(118M)」→「144M」→「300M」→「430M」→「600M」→「800M」→「TV」→「BC(1M)」と、受信バンドが切り替わります。
※または、[BAND](TS･LOCK)を押しながら[DIAL]を回して選択します。



受信バンドの切り替え

VFOモード

430Mバンド表示

◇ 音量を調整する

音量の[▲]または[▼]を押して、音量を調整します。
(表示部は音量レベルの表示になります。)
※ 押し続けると、連続動作になります。
※ また、音量の[▲]または[▼]を押しながら[DIAL]を回して調整できます。
※ スケルチが閉じている時には、[SQL](ATT･SET)を長く押して音量レベルを確認します。
※ 音量調整中は、40段階の音量レベル表示と7段階に分けたグラフィック表示をします。

音量調整

回す

どちらか押しながら

表示	音量レベル
_ _ _ _ _ _ _	0(無音)
0 _ _ _ _ _ _	1~7
00 _ _ _ _ _	8~15
☆000 _ _ _ _	16~23
0000 0 _ _	24~31
000 00 _	32~38
000 000	39(最大)

☆印は、初期設定値(19)

◇ 受信モード(電波型式)を設定する

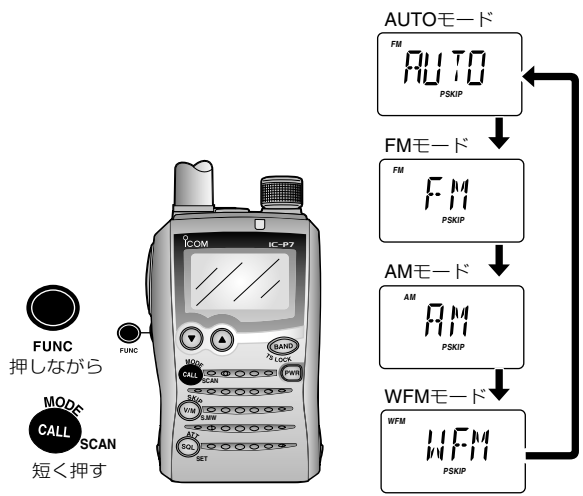
受信モード(電波型式)の初期設定値は“AUTO”を設定しています。

“AUTO”選択時は、受信バンドごとに通常使われている、受信モード(電波型式)が選択されます。

※ 受信モード(電波型式)を変えるときは[FUNC]を押したまま[CALL](MODE･SCAN)を短く押して、受信モード(電波型式)を選択します。

※ 短く押すごとに「AUTO」→「FM」→「WFM」→「AM」→「AUTO」と受信モード(電波型式)を切り替えます。

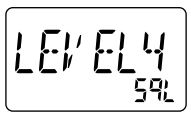
● 設定した受信モード(電波型式)は、受信中のバンドのみ有効です。



◇ スケルチレベルを調整する

① [SQL](ATT･SET)を押しながら[DIAL]を1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルを表示します。
※初期設定値は“AUTO”を設定しています。

② 信号を受信していない状態で雑音(ザー)が消える位置に、[SQL](ATT･SET)を押しながら[DIAL]を回してスケルチレベルを調整します。
※スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信できます。



スケルチレベル表示画面

表　示	スケルチレベル
OPEN	オープン(開放)
☆AUTO	オート(自動)
LEVEL1	レベル 1
LEVEL2	レベル 2
LEVEL3	レベル 3
LEVEL4	レベル 4
LEVEL5	レベル 5
LEVEL6	レベル 6
LEVEL7	レベル 7
LEVEL8	レベル 8
LEVEL9	レベル 9

☆印は、初期設定値

■アマチュアバンドを受信してみる (つづき)

◇ 周波数を設定する

① [V/M] (SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [DIAL]を回して、受信する周波数を設定します。
※アマチュアバンドのチューニングステップは、初期設定値をAUTOとしています。
※周波数を大きく変えるときは、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
1MHzステップ(初期設定値)で周波数を設定できます。
③受信すると、信号の強さに応じてSメーターが振れます。

受信する周波数を設定する

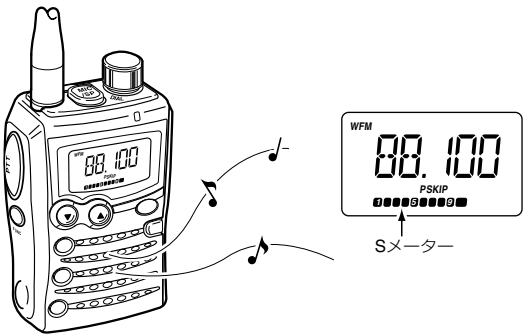
[DIAL]を回すと設定しているチューニングステップで周波数が変化する

信号を受信すると、Sメーターが振れる

■FM(ラジオ)放送を受信する

《例》FMラジオ　88.100MHzを受信する

① [V/M] (SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードを選択します。
② [BAND] (TS·LOCK)を押して、FM放送(76M)バンドを選択します。(初期表示：76.000MHz)
※または、[BAND] (TS·LOCK)を押しながら[DIAL]を回して選択します。
③ [FUNC]押しながら[CALL] (MODE·SCAN)を短く押して、WFMモードを選択します。
※AUTOモード選択時は、自動的にWFMモードになります。
④ [DIAL]を回して、88.100MHzを設定します。
⑤受信すると、ラジオ放送が聞こえてきます。
信号の強さに応じてSメーターが振れます。

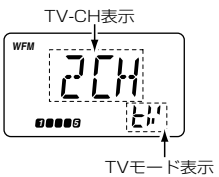


■TV(テレビ)放送を受信する

TVモードではVHF(1～12CH)、UHF(13～62CH)の音声を受信できます。
テレビ放送は、地域により受信できる局が限られています。
本機は、受信できる局だけを自動的に登録するTVバンドのスキップスキャン機能があります。

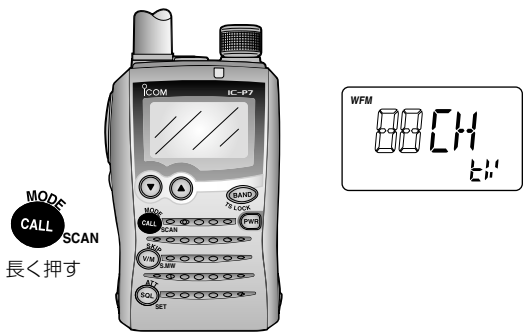
◇受信のしかた

① **[BAND]**(TS･LOCK)を押して、TVバンドを選択します。
※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「600M」→「800M」→「TV」→「BC(1M)」と、受信バンドが切り替わります。
② **[DIAL]**を回して、TV-CH選択します。
(初期時は、VHFの1～12CHのみ選択できます。)
※**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、全CH(1～62)を選択できます。



◇TVスキップスキャンのしかた

受信できないCHに自動でスキップ(SKIP)を指定できます。
① **[BAND]**(TS･LOCK)を押して、TVバンドを選択します。
② **[CALL]**(MODE･SCAN)を長く(約1秒)押すと、1CHから62CHまでを1回だけスキャンして止まります。
※このスキャンは受信できないCHを検出して、自動的にスキップ(SKIP)を指定していきます。
以後、**[DIAL]**を回すと、受信できるCHだけを表示して、スキップ(SKIP)が指定されたCHは表示しません。
ただし、**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、全CH(1～62)を選択できます。



■TV(テレビ)放送を受信する (つづき)

◇ 手動でスキップを指定する

① **[DIAL]**を回して、スキップを指定するCHを選択します。
または**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、スキップを解除するCHを選択します。

② **[FUNC]**を押しながら**[V/M]** (SKIP･S.MW)を押すごとに、スキップの指定(SKIP表示点灯)または解除します(SKIP表示消灯)。

【TVスキップスキャン機能についてのご注意】
TVスキップスキャン中にTV電波が受信されなくても、スプリアスやノイズにより**“SKIP”**が設定されない場合があります。
また、電波が弱い場合や時間帯によりTV電波が出ていない場合は、**“SKIP”**が設定されることがあります。

◆テレビ放送(音声)周波数一覧表 単位：MHz

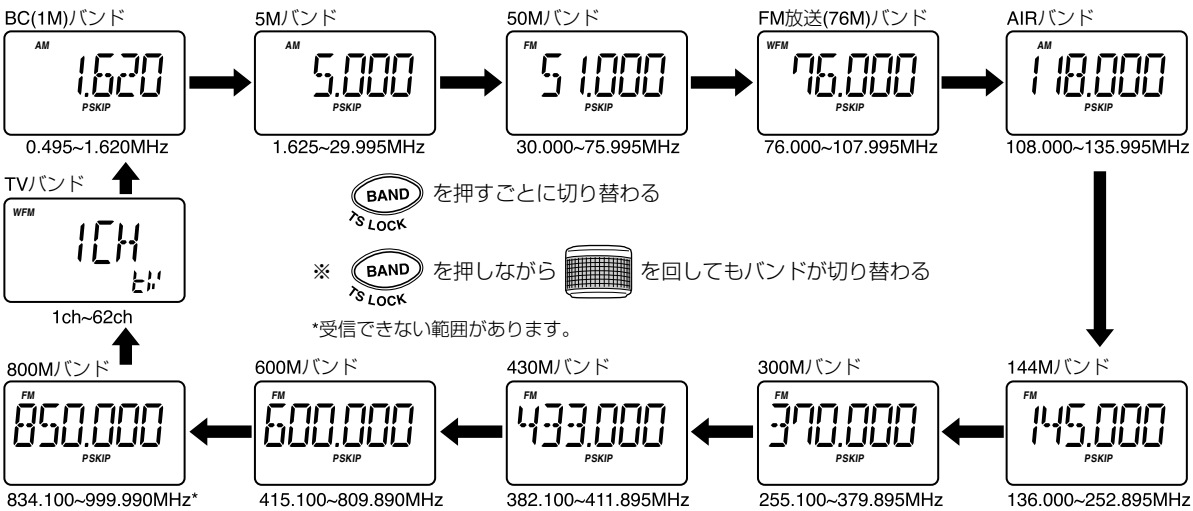
CH番号	周波数	CH番号	周波数	CH番号	周波数
VHF 1CH	95.75	UHF 22CH	529.75	UHF 43CH	655.75
2CH	101.75	23CH	535.75	44CH	661.75
3CH	107.75	24CH	541.75	45CH	667.75
4CH	175.75	25CH	547.75	46CH	673.75
5CH	181.75	26CH	553.75	47CH	679.75
6CH	187.75	27CH	559.75	48CH	685.75
7CH	193.75	28CH	565.75	49CH	691.75
8CH	197.75	29CH	571.75	50CH	697.75
9CH	203.75	30CH	577.75	51CH	703.75
10CH	209.75	31CH	583.75	52CH	709.75
11CH	215.75	32CH	589.75	53CH	715.75
12CH	221.75	33CH	595.75	54CH	721.75
UHF 13CH	475.75	34CH	601.75	55CH	727.75
14CH	481.75	35CH	607.75	56CH	733.75
15CH	487.75	36CH	613.75	57CH	739.75
16CH	493.75	37CH	619.75	58CH	745.75
17CH	499.75	38CH	625.75	59CH	751.75
18CH	505.75	39CH	631.75	60CH	757.75
19CH	511.75	40CH	637.75	61CH	763.75
20CH	517.75	41CH	643.75	62CH	769.75
21CH	523.75	42CH	649.75		

■受信バンド(周波数帯)について

各バンドの周波数範囲と初期設定周波数は、下図のとおりです。

◇受信バンドの選択

① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [BAND](TS·LOCK)を押して、受信バンドを選択します。
※または、[BAND](TS·LOCK)を押しながら[DIAL]を回して、選択します。



■VFOモードとメモリーモードの切り替えかた

VFOモードとメモリーモードは、下記のように使い分けします。

◇ VFOモードにするには

[DIAL]で周波数を設定するモードのことです。

① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押します。
※短く押すごとにVFOモードとメモリーモードが切り替わります。

② 以後、[DIAL]を回すと、周波数を設定できます。(☞P13)

◇ メモリーモードにするには

あらかじめ記憶させたM-CHを呼び出して受信するモードです。

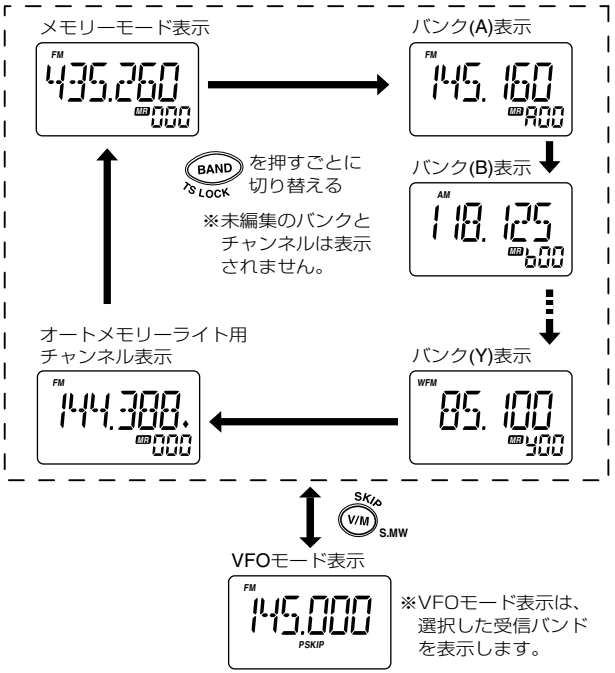
① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押します。
("MR"表示とM-CH番号が点灯します。)

② 以後、[DIAL]を回すと、書き込まれているM-CHのみ呼び出します。

◇ メモリーモード時の表示切り替えについて

メモリーモード時に[BAND](TS·LOCK)を押すごとに、「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」と表示を切り替えます。

※ または、[BAND](TS·LOCK)を押しながら[DIAL]を回します。

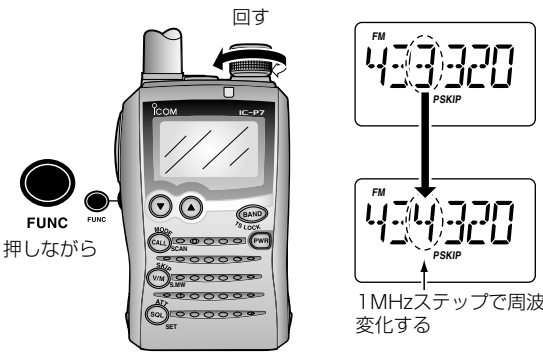


■周波数を大きく変えるときは

周波数を大幅に移動するときに便利な機能です。

① **[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

② **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回します。
※1MHzステップ(初期設定値)で周波数を設定できます。
※この周波数ステップは、SETモードで100kHzステップまたは10MHzステップに変更できます。



◇ 周波数ステップを変更する

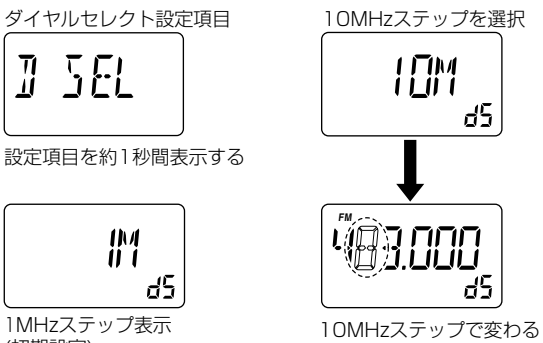
周波数ステップは、SETモードで変更できます。

① **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT･SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② **[DIAL]**を回して、**「D SEL(ダイヤルセレクトの設定)」**項目を選択します。

③ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、周波数ステップを選択します。
- **100k** ：周波数ステップが100kHzになります。
- **1M** ：周波数ステップが1MHzになります。(初期設定値)
- **10M** ：周波数ステップが10MHzになります。

④ **[SQL]**(ATT･SET)を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

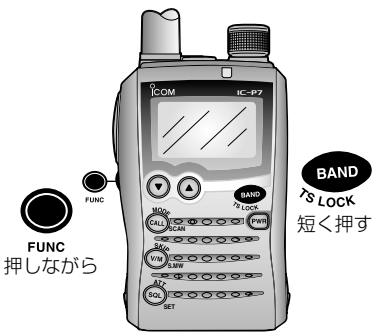


■チューニングステップを変える

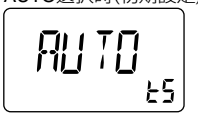
① [FUNC]を押しながら[BAND](TS･LOCK)を短く押します。
(チューニングステップを表示します。)
※チューニングステップは、初期設定値で“AUTO”を設定しています。

② [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。
5.0*1/6.25*1/8.33*2/9.0*3/10.0/12.5/15.0/20.0/25/30.0/50.0/100.0/200.0kHzおよびAUTOが選択できます。
*1：500MHz以下のバンドで選択でき、その他のバンドでは選択できません。
*2：AIRバンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。
*3：BC(1M)バンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。

③ [BAND](TS･LOCK)を短く押すと、周波数表示に戻ります。



AUTO選択時(初期設定)



20kHzステップ選択時

■アッテネーター(ATT)機能について

アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに減衰して受信音のひずみを低減します。
アッテネーターの減衰量は、約10dBですが、受信周波数により、変化します。
[FUNC]を押しながら[SQL](ATT･SET)を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を“ON/OFF”します。
※ “ON”時は、“ *ATT* ”表示が点灯します。
※ アッテネーター機能は、すべてのバンドで動作します。

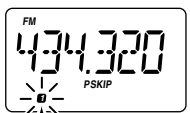
アッテネーター表示

■モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きとりにくい場合に効果があります。

[SQL](ATT・SET)を押している間、スケルチを開いて受信します。スケルチレベルの“OPEN”と同じ状態になります。

※ [SQL](ATT・SET)の動作を、1回押すごとに“ON/OFF”するようにSETモードで変更できます。
(モニターホールド機能 ☞P59)



モニター機能動作時は点滅する

◇ モニター機能を変更する

モニター機能は、SETモードで変更できます。

① [FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)の設定」項目を選択します。

③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。

④ [DIAL]を回して、「MONI(モニターホールド機能の設定)」項目を選択します。

⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、選択します。
- PUSH ：押している間、スケルチを開きます。
(初期設定値)
- HOLD ：一回押すとスケルチを開き、もう一度押すとスケルチを閉じます。

⑥ [SQL](ATT・SET)を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

■[DIAL]と[▲]/[▼]の割り当て機能を反転

[DIAL](周波数やM-CHなどの設定)と、[▲]/[▼](音量調整)に割り当てた機能を反転できます。

[FUNC]を押しながら[▲]または[▼]を押すごとに、反転機能が“ON/OFF”します。

※ 反転機能動作時は“*VOL*”表示が点灯します。

	通常の動作	反転時の動作
DIAL	周波数の設定 M-CHの設定 スケルチの設定 スキャン方向の変更 SETモードの項目と内容の設定	音量の調整 SETモードの内容の設定
▲ ▼	音量の調整	周波数の設定 M-CHの設定 スケルチの設定 スキャン方向の変更 SETモードの項目の選択

■コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた

CALL-CHとは、各バンドで決められた呼び出し周波数のことで、メインチャンネルとも呼ばれています。

通常のM-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き替えられるので、使用頻度の高い周波数を記憶しておくと便利です。

初期設定値　C0: 145.000MHz(144Mバンド)
C1: 433.000MHz(430Mバンド)

◆CALL-CHの呼び出し

① [CALL](MODE･SCAN)を短く押して、CALL-CHを呼び出します。
② [DIAL]を回して“C0”か“C1”のどちらかを選択します。
③ [CALL](MODE･SCAN)または [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、VFOモード(またはメモリーモード)に戻ります。

C0: 144Mバンド

C1: 430Mバンド

◆CALL-CHの書き替え

コールチャンネルの書き換えはP29の**「メモリー(M-CH/PROGRAM-CH/CALL-CH)への書き込みかた」**をご参照ください。

■送信のしかた

◇ アマチュアバンドの運用

送信する前に、その周波数を他局が使用していないか確認し、混信や妨害を与えないようにご注意ください。
また、バンドの使用区別(バンドプラン)を厳守のうえ、運用してください。(☞P77)交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。

※ マイク部と口元は5cmぐらい離して、普通の大きさの声で話してください。マイク部を近づけすぎたり、大きな声で話すとかえってめいりょう度が悪くなりますのでご注意ください。

◇ 運用バンドと周波数を設定する

① [BAND](TS·LOCK)を押して、アマチュアバンド(144/430 MHz帯)を選択します。
※ または[BAND](TS·LOCK)を押しながら[DIAL]を回して設定します。
② [DIAL]を回して、送信周波数を設定します。

◇ 送信出力を設定して送信する

① [FUNC]を押しながら、[PTT]を押すごとに**"HIGH"/"LOW"**を切り替えます。
※ LOW出力のとき、表示部に***"LOW"***が点灯します。
※ 表示部にLOWが点灯していないときは、HIGH出力になります。
② [PTT]を押しながら、マイク部に向かって話します。
※ 送信/受信ランプが赤色に点灯します。
※ 設定した送信出力をS/RFメーターに表示します。
※ [PTT]を離すと、受信状態に戻ります。

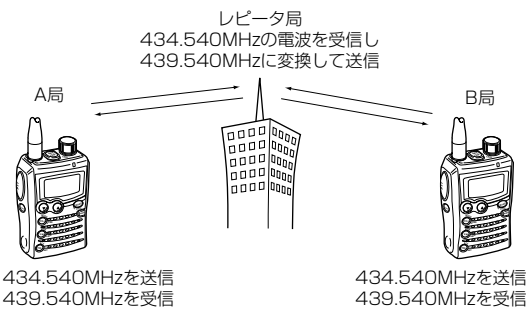
5 レピータ/デュプレックスの操作

■オートレピータ機能での交信

IC-P7は、オートレピータ機能を搭載しており、周波数を439.000MHz～440.000MHzに合わせるだけで、レピータ運用モードになります。

※レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局のことをいいます。

※オートレピータ機能は、SETモードの**「オートレピータ機能の設定(AUTORP)」**項目で無効にすることもできます。(☞P60)



※430MHz帯では、各地区にレピータが設置されているので、JARL NEWSや各専門誌、インターネットなどでご確認ください。

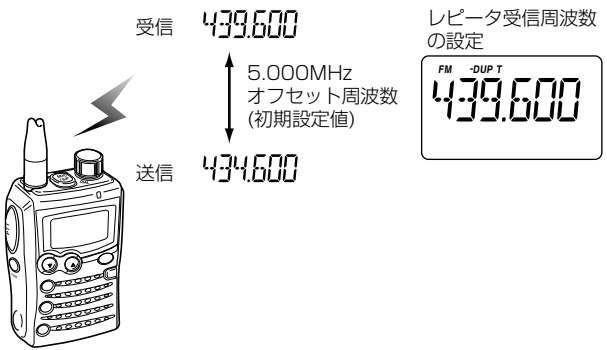
【ご注意】
本機では、D-STAR®レピータにアクセスできませんので、ご注意ください。

◇ レピータ周波数を設定する

① **[V/M]** (SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモードを切り替えます。

② **[DIAL]**を回して、交信する周波数を設定します。
439.000MHz～440.000MHzに合わせます。
" *-DUP T* **"**を表示して、トーン周波数(88.5Hz/初期設定値)とオフセット周波数(5.000MHz/430Mバンドの初期設定値)が自動的に設定されます。

※送信周波数と受信周波数のずれ幅のことをオフセット周波数といいます。

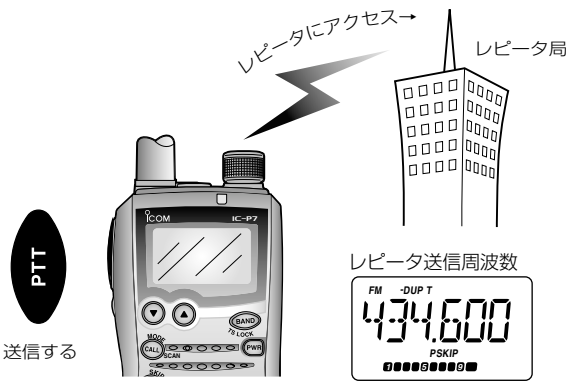


【ご注意】
レピータアクセス用トーン周波数(☞P55、65)とオフセット周波数(☞P56)を変更したときは、オートレピータ機能のトーン周波数/オフセット周波数も変更されます。

◇ レピータにアクセスする

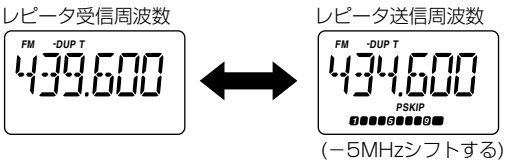
[PTT]を約2秒間押して、離します。

※ 発射した電波がレピータに届いていれば、受信状態に戻ったときに、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。なお、タイミングにより、ID信号が聞こえない場合もあります。



◇ 交信する

[PTT]を押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。



(−5MHzシフトする)

◇ オートレピータ機能の解除のしかた

オートレピータ機能は、セットモードで解除できます。(☞P60)

① [FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押してSETモードにします。

② [DIAL]を回して、「SET項目拡張の設定(EXPAND)」項目を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して"ON"にします。(☞P58)

③ [DIAL]を回して「オートレピータ機能の設定(AUTORP)」項目を選択します。(☞P60)

④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「OFF」を選択します。

オートレピータ　ON
(初期設定)

オートレピータ　OFF
を選択して解除します

- **ON**　：オートレピータを使用する。(初期設定値)
- **OFF**　：オートレピータを使用しない。

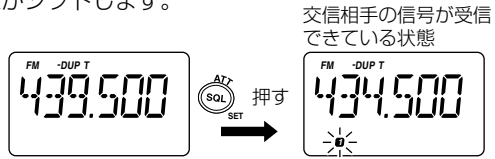
⑤ [SQL](ATT・SET)を短く押すと、SETモードを解除します。

■オートレピータ機能での交信 つづき

◇ 送信周波数のチェック

レピータの運用中に、レピータを中継しなくても交信可能かどうかチェックできます。
[SQL](ATT・SET)を押して、交信相手の信号が受信できれば、レピータで中継しなくても交信できます。

※ モニター機能動作時は、**“1”**表示が点滅します。
※ 受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移って交信しましょう。
※ モニター機能動作時は、オフセット周波数分だけ周波数表示がシフトします。



モニター機能動作時は**1**が点滅する

◇ 送信時のオフバンド表示について

オフセット周波数を変更(☞P56)したときは、オートレピータ機能のオフセット周波数も変更されるのでご注意ください。

※ 送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、送信出力は停止して周波数表示部に“OFF”を表示し、オフバンドしていることを知らせます。
※ オフバンド表示になったときは、もう一度オフセット周波数を設定しなおしてください。

■デュプレックスの運用

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)と違い、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することをいいます。

- 「DUP +(プラス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数※だけ高くなります。
- 「DUP −(マイナス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数※だけ低くなります。

※ 送信周波数と受信周波数のずれ幅のことをオフセット周波数といいます。

オフセット周波数の設定表示

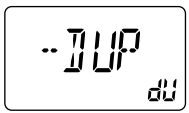
◇ オフセット周波数を設定する

オフセット周波数は、SETモードで設定できます。(☞P56)

① メモリーモードのときは**[V/M]**(SKIP・S.MW)を押して、VFOモードにします。
② **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT・SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。
[DIAL]を回して、**「オフセット周波数の設定（OFF-SET）」**項目を選択します。
③ **[DIAL]**を回して、オフセット周波数を設定します。
※VFOモードに設定しているチューニングステップで動作します。(☞P19)
※**0.000～159.995MHz**の範囲で設定できます。
※IC-P7は**“5.000MHz”**(430Mバンド)を初期設定しています。
④ **[SQL]**(ATT・SET)スイッチを短く押すと、SETモードを解除します。

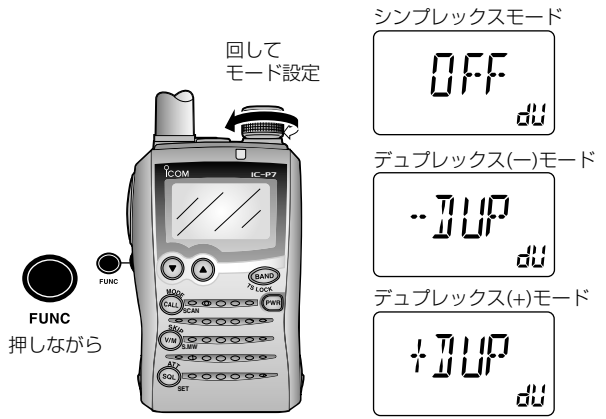
◇ デュプレックスモードを設定する

① [V/M](SKIP·S.MW)を押して、VFOモードにします。
② [DIAL]を回して、交信する周波数を設定します。
③ [FUNC]を押しながら[SQL](ATT·SET)を長く(約1秒)押して、[DIAL]を回して、**「レピータ(デュプレックス)の設定(DUP)」**項目を選択します。(☞P56)



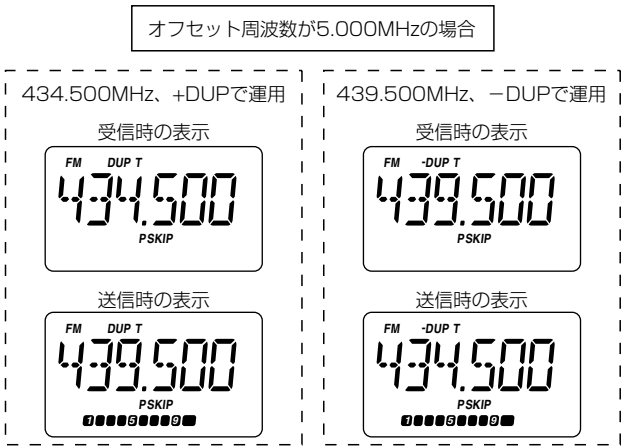
デュプレックスモード表示

④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**「OFF(シンプレックス)」→「−DUP(マイナス)」→「+DUP(プラス)」**とデュプレックスモードを切り替えます。



◇ 交信する

[PTT]スイッチを押すと送信状態、離すと受信状態に戻ります。



◇ 送信時のオフバンド表示について

- 送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、送信出力は停止して周波数表示部に**"OFF"**を表示して、送信周波数がオフバンドしていることをお知らせします。
- オフバンド表示になったときは、もう一度オフセット周波数、またはデュプレックスのシフト方向(+/−)を設定しなおしてください。

6 メモリーの使いかた

■メモリーモードについて

よく使用する周波数や情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(**以下、M-CHと略記します。**)に記憶させておき、すばやく呼び出して受信するためのモードです。

◆表記について

- 本機には、通常のM-CHとして1000CH(バンドの区別はありません)、プログラムスキャン用チャンネル(**以下、PROGRAM-CHと略記します。**)として50CH(00A/00B～24A/24B)、およびオートメモリーライト 200CH(◆000～◆199)の合計1250CHを内蔵しています。
- M-CHで受信する際は、メモリーモードにします。
  メモリー(記憶)していないM-CHは呼び出さないので、すばやく目的のM-CHを呼び出せます。
- M-CHに記憶する際は、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◆M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

- 「デュプレックスのON/OFF」、「シフト方向(+/−)」、「オフセット周波数」、「トーンスケルチのトーン周波数と受信モードのON/OFF」、「DTCSコード・極性」、「メモリーバンク」、「メモリーネーム」、「スキップのON/OFF」、「チューニングステップ(TS)」、「受信モード(電波型式)」

◆メモリーチャンネル(M-CH)の内容

チャンネル	お もな 用 途
000～999 (M-CH)	● 通常のM-CHとして使用する ● 工場出荷時に記憶している内容 “000”：145.000MHz “001”：433.000MHz ※002～999は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
00A/00B～24A/24B (PROGRAM-CH)	● プログラムスキャンの周波数設定用(25組、50CH) ● 工場出荷時に記憶している内容 “00A”：0.495MHz / “00B”：999.975MHz “01A”：144.000MHz / “01B”：146.000MHz “02A”：430.000MHz / “02B”：440.000MHz ※“03A/03B～24A/24B”は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
◆000～◆199 (オートメモリーライト用チャンネル)	● オートメモリーライトスキャン時の自動書き込み用 “◆000”～“◆199” (200CH)

【ご注意】

メモリーの内容は、静電気や電気的雑音などで消失することがあります。また故障や修理の際にも消失する場合があります。メモリーの内容を紙などに控えておくことをおすすめします。

■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

M-CHは、[DIAL]ツマミで呼び出せます。

◇ [DIAL]ツマミで呼び出すには

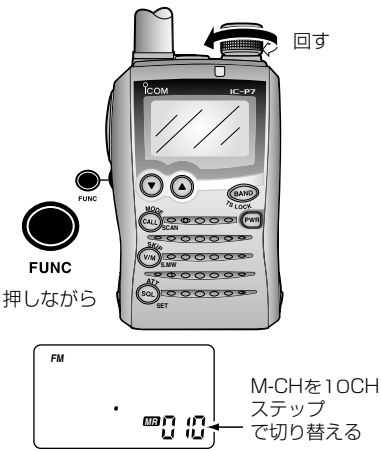
① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [DIAL]を回します。
※書き込まれているM-CHのみ呼び出します。

◇ 10CHステップで呼び出すには

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
※ M-CHを10CHステップで、呼び出せます。
※ プログラムスキャンの周波数設定用は5CHステップで、呼び出せます。
(ブランクチャンネルも呼び出します。)

◇ 書き込んでいないM-CHを呼び出すには

① [V/M](SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押すと、セレクトメモリーライト状態になります。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
② [DIAL]を回すと、すべてのM-CHを呼び出し、確認できます。



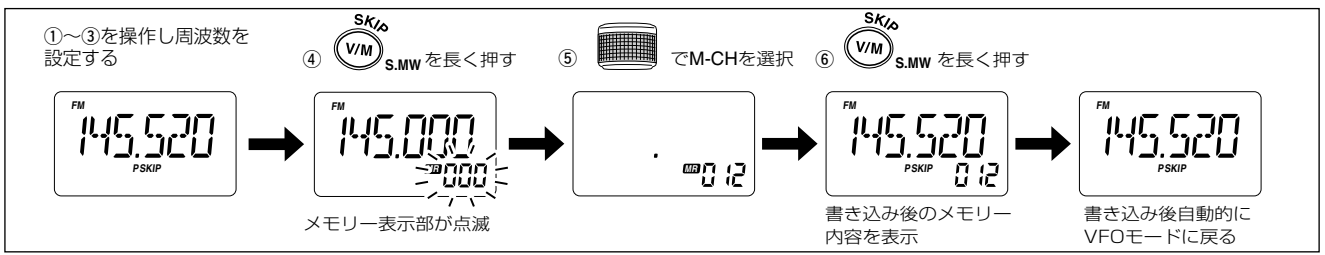
■メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

メモリーチャンネル(M-CH)、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)への書き込み、または書き替えをします。
工場出荷時は、チャンネル**“002～999”**までがブランクチャンネルになっています。
なお、受信バンドによるM-CHの区別はありません。

◇M-CHへの書き込みかた

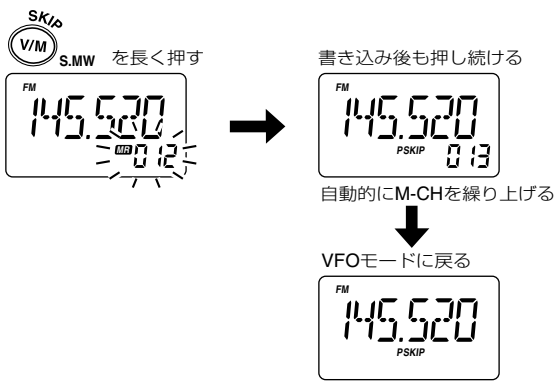
【例】“145.520MHz”をチャンネル**“012”**に書き込む場合

① **[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② **[BAND]**(TS･LOCK)を短く押して、**144Mバンド**を選びます。
③ **[DIAL]**を回して、周波数を**“145.520MHz”**にします。
④ **[V/M]**(SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
⑤ **[DIAL]**を回して、M-CHを**“012”**にします。
※**“VF”**を選ぶとVFO、**“C0,C1”**を選ぶとコールチャンネル**“00A/00B～24A/24B”**を選ぶとPROGRAM-CHに書き込めます。
※**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回すと、10CHステップで、M-CHを呼び出せます。
⑥ **[V/M]**(SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押すと、書き込み完了したメモリー内容を表示して、VFOモードに戻ります。



◇ 書き込み後のオートインクリメントについて

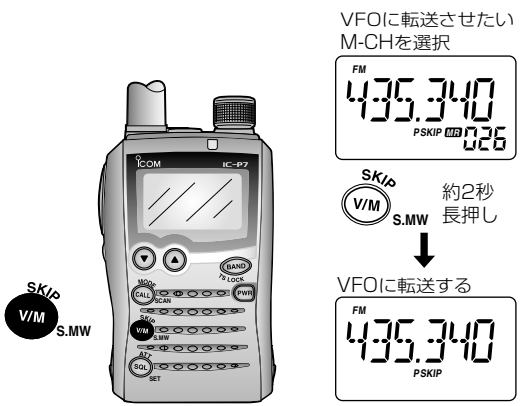
前ページ⑥[V/M](SKIP·S.MW)で書き込み完了後も押し続ける(約2秒)とM-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。
続けてM-CHに書き込みをするときに便利な機能です。



◇ メモリー内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CHの周辺に移って受信する場合などに便利な機能です。

① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押してメモリーモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
※[BAND](TS·LOCK)を短く押して、メモリーモード表示にします。
② [DIAL]で希望のM-CHを呼び出します。
③ [V/M](SKIP·S.MW)を長く(約2秒)押します。
M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

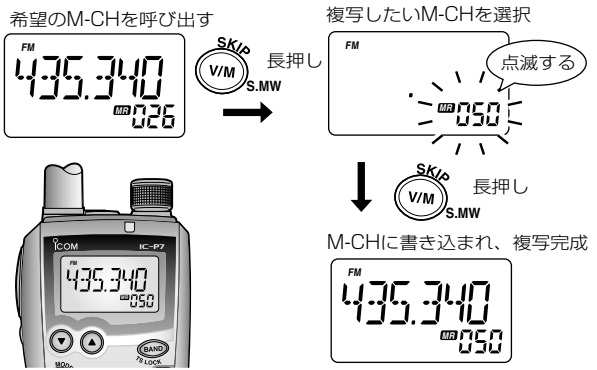


■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた (つづき)

◇ メモリー内容を他のチャンネルへ複写するには

M-CHの内容をプログラムスキャン用周波数として複写する場合に便利な機能です。

① **[V/M]**(SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
※**[BAND]**(TS·LOCK)を短く押して、メモリーモード表示にします。
② **[DIAL]**を回して、希望のM-CHを呼び出します。
③ **[V/M]**(SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押します。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
④ **[DIAL]**を回して、複写したいM-CHを選びます。
※**"VF"**を選ぶとVFO、**"00A/00B～24A/24B"**を選ぶとPROGRAM-CHに書き込みます。
⑤ **[V/M]**(SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押します。



■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する

本機のM-CHは1000CH(000～999)あります。
1000CHに書き込んだM-CHの内容を18個のバンク(A～H、J、L、N～R、T、U、Y)に分割して編集できます。
各バンクには、00～99(100CH)のチャンネルが割り当ててあります。

◇ M-CHとバンクチャンネルの使用例

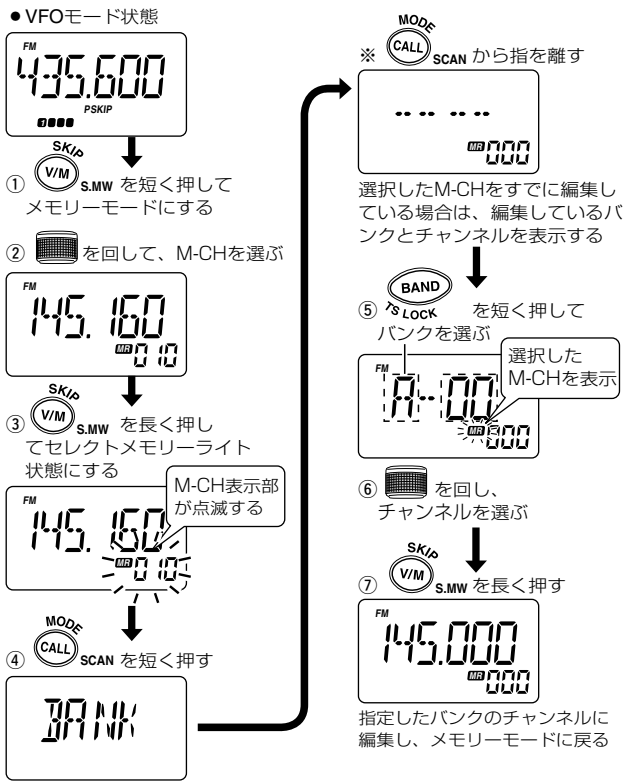
M-CHの内容	バンクチャンネル	バンクの内容
000 51.000MHz		
001 145.160MHz	A00	A 00~99 144MHz帯を編集する
002 118.125MHz	B00	B 00~99 AIRバンドを編集する
003 145.120MHz		C 00~99 430MHz帯を編集する
004 435.340MHz		D 00~99
005 145.040MHz	A01	E 00~99
006 118.200MHz	B01	F 00~99
007 850.480MHz		G 00~99
008 52.560MHz		H 00~99
009 1.620MHz		J 00~99
010 50.140MHz		L 00~99
011 433.020MHz	C00	N 00~99
012 76.500MHz		O 00~99
013 433.560MHz	C01	P 00~99
014 145.540MHz	A02	Q 00~99
015 369.850MHz		R 00~99
016 127.700MHz	B02	T 00~99
017 85.100MHz	Y00	U 00~99
018 84.700MHz	Y01	Y 00~99 FM放送バンドを編集する
019 75.795MHz	Y02	
020 434.720MHz	C02	
021 146.300MHz	A03	
⌇		
999 434.860MHz	C03	

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集もとのM-CHを変更または更新するとメモリーバンクの内容も変更されます。

◇ 編集のしかた

① **[V/M]**(SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
※ 短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
※ **[BAND]**(TS·LOCK)を押して、メモリーモード表示にします。(☞P28)
② **[DIAL]**を回して、バンクで編集するM-CHを選びます。
③ **[V/M]**(SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
④ **[CALL]**(MODE·SCAN)を短く押して、**"BANK"**項目を選択します。
※ **[CALL]**(MODE·SCAN)から指を離すと、バンクの選択状態になります。
※ 選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクとチャンネルを表示します。
⑤ **[BAND]**(TS·LOCK)を短く押して、バンクを選択します。
※ または、**[BAND]**(TS·LOCK)を押しながら**[DIAL]**を回して、バンク選択します。
⑥ **[DIAL]**を回して、チャンネルを選びます。
※ すでに編集しているバンクのチャンネルを選ぶことはできません。
⑦ **[V/M]**(SKIP·S.MW)を長く押すと、指定したバンクのチャンネルに編集して、メモリーモードに戻ります。

※バンクを解除するときは、①～④操作のあと、**[BAND]**(TS·LOCK)を押しながら**[DIAL]**を回し、**"-- -- -- --"**項目を選択してから、**[V/M]**(SKIP·S.MW)を長く押してください。



■メモリー/バンクネームの使いかた

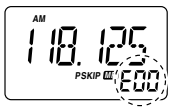
メモリーに記憶しているM-CH、または編集した各バンクにアルファベット、数字、記号を使用して、6文字以内で名前(ネーム)を入れることができます。
※ 編集していないバンクは選択できません。

◇ メモリー/バンクネームを入力する

《例》 M-CH“045”に“NHK-FM”のメモリーネームを入れる場合
《例》 バンク“E”に“AIR”のバンクネームを入れる場合

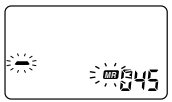
① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND](TS·LOCK)を押して、メモリーモード表示またはバンク表示にします。
※バンクを選択するときは、[BAND](TS·LOCK)を押して、ネームを入れたいバンクを選びます。
③ [DIAL]を回して、ネームを入れたいM-CHを選びます。

M-CHを選択



バンクを選択

④ [V/M](SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押します。
(M-CH表示部が点滅します。)
⑤ [CALL](MODE·SCAN)を数回押して、“M NAME(メモリーネーム)”または“B NAME(バンクネーム)”項目を選択します。
(メモリーネームまたはバンクネームの表示画面となり、ネームの1桁目と“ MR ”表示が点滅します。)

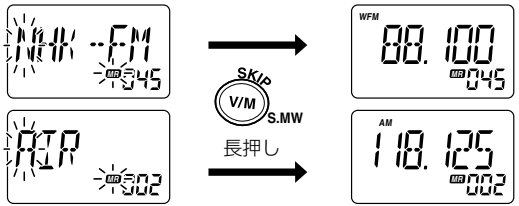
メモリーネームを選択


バンクネームの表示

編集元のM-CHを表示する

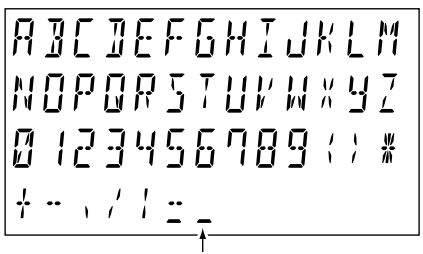
※すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときはブランク表示となります。
⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、1桁目の文字を選びます。
⑦ [DIAL]を回して、文字を入れる桁を選びます。

⑧ 前記⑥～⑦を繰り返して、6文字以内でネームを入れます。
⑨ [CALL](MODE·SCAN)を数回押して、“S.MW(セレクトメモリーライト)”項目を選択します。
⑩ [V/M](SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押すと書き込みます。



※ネームを訂正したいときは、メモリーネームまたはバンクネームを入れなおしてください。
最後に入れたネームが有効となります。
※バンクネームは、バンクごとにネームを入れることはできますが、バンクチャンネルごとにネームを入れることはできません。

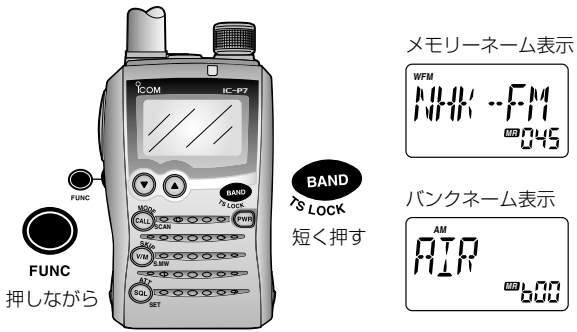
●文字入力一覧表



◆メモリーネームを表示するときは

① [V/M] (SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [FUNC]を押しながら[BAND] (TS·LOCK)を押して、「M NAME (メモリーネーム)」表示または「B NAME (バンクネーム)」表示を選択します。

- **M-CHの選択**
  メモリーモードで、[DIAL]を回して選択します。
- **バンクの選択**
  メモリーモードで、[BAND] (TS·LOCK)を押して選択します。



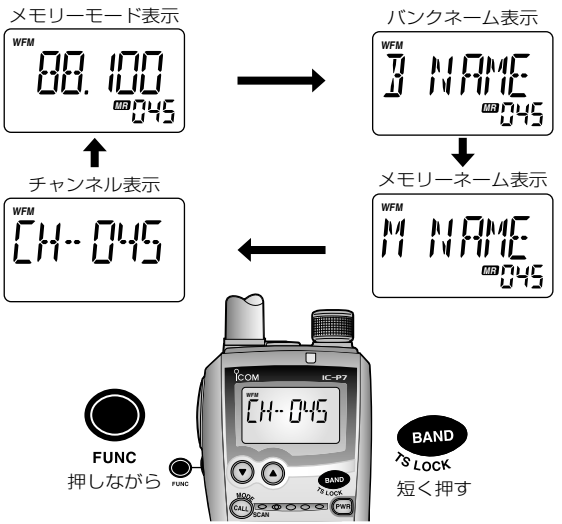
■ メモリー/バンクネームの使いかた (つづき)

◇ 表示を切り替えるには

表示機能をいつでも簡単に切り替えて表示できます。

- メモリーモードで、[FUNC]を押しながら[BAND](TS·LOCK)を押すごとに、「**メモリーモード** (周波数表示)」→「**B NAME** (バンクネーム)」→「**M NAME** (メモリーネーム)」→「**CH-045** (チャンネル表示)」と表示を切り替えます。

※ メモリーネーム表示、バンクネーム表示を選択すると、約1秒後にネームを表示します。
ネームを書き込んでいないときは表示されず、周波数表示になります。



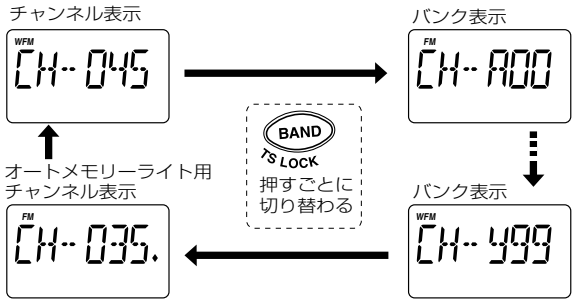
◆チャンネル表示を切り替えるには

チャンネル表示は、記憶したM-CH、編集したバンクとチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの周波数表示をチャンネル番号で表示します。
書き込んだすべてのM-CH(チャンネル)が使用できます。
スキップチャンネルも表示します。

① メモリーモードで、[FUNC]を押しながら[BAND](TS·LOCK)を数回押して、「**チャンネル表示**」にします。(左記参照)

② チャンネル表示状態で、[BAND](TS·LOCK)を押すごとに、下記のようにチャンネル表示を切り替えます。

※各チャンネル表示選択時に、[DIAL]を回すとチャンネルを選択できます。

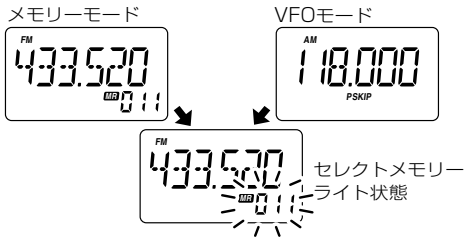


■メモリークリア(消去)のしかた

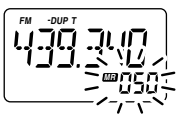
不要になったM-CHとPROGRAM-CHを消去します。
いったん消去したM-CHとPROGRAM-CHの内容は、復活できないのでご注意ください。なお、すべてのPROGRAM-CHを消去するとプログラムスキャンができません。

◇ メモリー内容を消去する

①メモリーモードまたはVFOモードを選択してから、[V/M](SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)



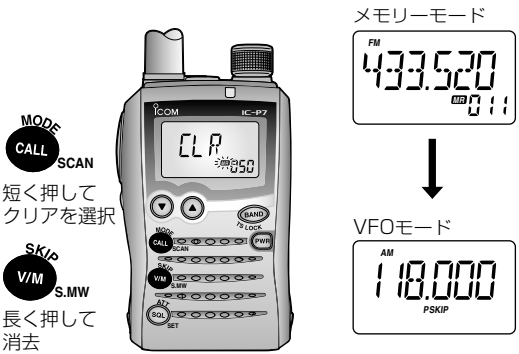
② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。



③ [CALL](MODE·SCAN)を数回押して、"CLEAR"項目を選択します。

④ [V/M](SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押すと、メモリー内容を消去します。

⑤消去後、[V/M](SKIP·S.MW)を短く押すと、①で選択したときの表示に戻ります。
なお、①で選択したM-CHを消去したときは、ブランク表示になります。



※ TVモード選択時は、メモリークリアの操作はできません。
※ オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作は42ページを参照してください。

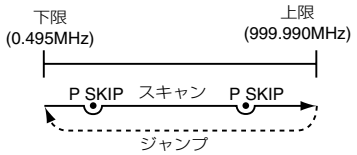
7 スキャンのしかた

■スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

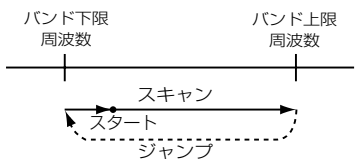
◇ VFOモードで行うスキャン

●フルスキャン(ALL)の動作(☞P40)



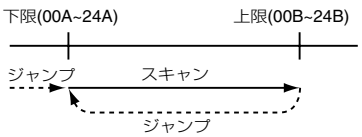
受信周波数範囲(0.495～999.990MHz)をスキャンする。

●バンドスキャン(BAND)の動作(☞P40)



指定したバンドの周波数範囲をスキャンする。

●プログラムスキャン(PROG 0～24)の動作(☞P40)



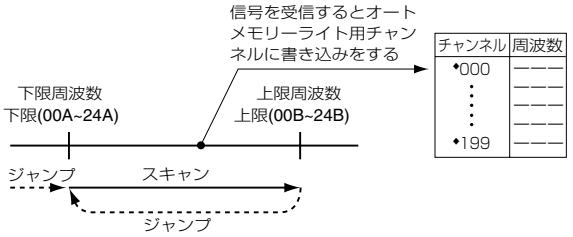
プログラムスキャン用チャンネル(PROG-RAM-CH)に書き込んだ周波数範囲をスキャンする。

※ なお、**"PSKIP"**が指定された周波数は、スキップしてスキャンします。(☞P43)

※ A/Bに同じ周波数が設定されていたり、2ch以上書き込まれていないときは、プログラムスキャンは動作しません。

◇ VFOモードで行うスキャン(つづき)

●オートメモリーライトスキャンの動作(☞P41)



スキャン中に信号を受信すると、その周波数をオートメモリーライト用チャンネル(♦000～♦199)へ自動的に順次書き込む

◇ メモリーモードで行うスキャン

◆メモリースキャン(P43)

- **フルメモリースキャン(M ALL)**
  すべてのメモリーをスキャンします。

◆メモリーバンクスキャン(P44)

- **フルバンクスキャン(B ALL)**
  すべてのバンクをスキャンします。
- **バンクリンクスキャン(B LINK)**
  指定したバンクをリンクしてスキャンします。
- **バンクスキャン(BANK A～Y)**
  指定したバンクのみをスキャンします。

※ なお、**"PSKIP"**または**"SKIP"**スキップが指定されたM-CHはスキップしてスキャンします。

◆スケルチの調整

通常スケルチレベルは**“AUTO”**にしていますが､受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

- **[SQL]**(ATT･SET)を押しながら**[DIAL]**を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞P12)
  スキャン動作中では、スケルチ調整が終わるとスキャンが再スタートします。

◆スキャン中の[DIAL]ツマミについて

- スキャン中に**[DIAL]**を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、**[DIAL]**を回すと即時再スタートします。

◆スキャン中のステップと受信モード(電波型式)について

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P19)で動作します。
また、受信モードもVFOモードで設定している電波型式で動作します。

◆スキャンストップ時のビープ音設定

スキャンがストップしたときに、ビープ音を鳴らして知らせるように、EXPAND(拡張機能)SETモードの**「スキャン停止時ビープ音の設定(STOP B)」**項目(☞P60)で設定できます。

◆スキップ機能について

すべてのスキャンでスキップ(必要のない周波数またはM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。
スキップの設定については43ページを参照してください。

◆空線キャンセラー機能について

鉄道無線で通話していない周波数で聞こえる2280Hzの空線信号を検出できます。

- **[DIAL]**操作時に空線信号を受信すると、受信音をミュートします。
- スキャン中に空線信号を検出すると、スキャンを再スタートします。
  空線キャンセラーの設定については39ページを参照してください。

◆MSK機能について

MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出できます。

- **[DIAL]**操作時にMSK制御信号を受信すると、受信音をミュートします。
- スキャン中にMSK制御信号を検出すると、スキャンを再スタートします。
  MSK機能の設定については39ページを参照してください。

◆信号を受信すると

スキャン中に信号を受信すると、その周波数を約10秒(初期設定値)間受信します。

- 約10秒経過すると、自動的に再スタートします。
  また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再スタートします。
- 上記のタイマーは、SETモードの**「スキャン一時停止タイマー設定(PAUSE)」**項目(☞P59)、**「スキャン再スタートタイマーの設定(RESUME)」**項目(☞P59)で変更できます。

■ スキャンについて (つづき)

◇ 空線キャンセラー機能を設定する

空線キャンセラー機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、空線信号を検出するとスキャンを再スタートします。

空線キャンセラー機能は、SETモードで設定します。

①[FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② [DIAL]を回して、「SET項目拡張の設定(EXPAND)」項目を選択します。

③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、"ON"を選択します。

④ [DIAL]を回して、「キャンセラー機能の設定(SQL)」項目を選択します。

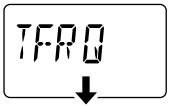
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「TRAIN」を選択します。

⑥ [DIAL]を回して、「空線信号の周波数設定(TFRQ)」項目を選択して、約1秒後に空線信号の周波数(2280Hz)を表示します。

※[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、空線信号の周波数を可変できます。
(可変範囲：300～3000Hz)

⑦ [SQL](ATT・SET)を短く押すと、SETモードを解除して空線キャンセラー機能による受信状態になります。

TFRQを選択後、



空線信号の周波数を表示する

空線キャンセラー機能による受信状態

◇ MSK機能を設定する

MSK機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、MSK制御信号を検出するとスキャンを再スタートします。

MSK機能は、SETモードで設定します。

① [FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)の設定」項目を選択します。

③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、"ON"を選択します。

④ [DIAL]を回して、「キャンセラー機能の設定(SQL)」項目を選択します。

⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「MSK」を選択します。

⑥ [SQL](ATT・SET)を短く押すと、SETモードを解除してMSK機能による受信状態になります。

MSK項目表示

MSK機能による受信状態

- 空線キャンセラー機能、MSK機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。
- 空線キャンセラー機能、MSK機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。MSK信号は1200bpsのMSK信号を検出できます。
  周波数がズレた場合などは、検出できない場合もあります。
- 空線キャンセラー機能において、空線信号の周波数(2280Hz)を±50Hz程可変することにより、効果があることがあります。

■VFOスキャンのしかた

◇VFOスキャンの操作

- フルスキャンは、周波数範囲のすべてをスキャンします。
- バンドスキャンは、指定したバンドの周波数範囲内をスキャンします。
- プログラムスキャンは、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)の“00A/00B”～“024A/024B”に記憶している周波数範囲をスキャンします。
- VFOまたはM-CHで“P SKIP”を指定している周波数はスキップしてスキャンします。

◆工場出荷時、PROGRAM-CHに記憶している内容

“00A”：0.495MHz　/**“00B”**：999.975MHz
“01A”：144.000MHz /**“01B”**：146.000MHz
“02A”：430.000MHz /**“02B”**：440.000MHz
※**“03A/03B～024A/024B”**は工場出荷時、何も記憶されていません。
PROGRAM-CHへの書き込みについては29ページを参照してください。

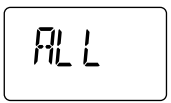
◆スタート操作

① **[V/M]**(SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※スキップスキャンを選択するときは、**[FUNC]**を押しながら**[V/M]**(SKIP·S.MW)を短く押して、***“PSKIP”***表示を点灯させます。
再度、同じ操作を行うと***“PSKIP”***表示が消灯します。
- **PSKIP**　：スキップが指定された周波数をスキップします。
- **消灯**　：すべての周波数をスキャンします。

② **[CALL]**(MODE·SCAN)を長く(約1秒)押します。
③ **[DIAL]**を回して、スキャン範囲**「ALL」/「BAND」/「PROG 0～24」**を選びます。
- **ALL**　：フルスキャン動作となります。
- **BAND**　：バンドスキャン動作となります。
- **PROG 0～24**　：プログラムスキャン動作となります。

④ 選択後、**[CALL]**(MODE·SCAN)を短く押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に**[BAND]**(TS·LOCK)を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えできます。

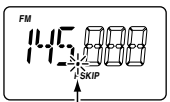
フルスキャンの選択



バンドスキャンの選択

プログラムスキャンの選択

スキャン中の表示



スキャン中は点滅する

◆ストップ操作

- **[CALL]**(MODE·SCAN)を短く押します。

◆プログラムスキャン中のステップについて

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P19)で動作します。

◆周波数スキップ自動書き込みについて

VFOスキャン時に[FUNC]を押しながら[V/M](SKIP·S.MW)を長く(約1秒)押すと、SKIP MW(周波数スキップ自動書き込み)をします。

① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
② [CALL](MODE·SCAN)を長く(約1秒)押します。
③ [DIAL]を回して、スキャン範囲「ALL」/「BAND」/「PROG 0～24」を選びます。
- ALL　：フルスキャン動作となります。
- BAND　：バンドスキャン動作となります。
- PROG 0～24　：プログラムスキャン動作となります。

④ 選択後、[CALL](MODE·SCAN)を短く押すと、スキャンを開始します。
スキャン中に[FUNC]を押しながら、[V/M](SKIP·S.MW)を長く押すと、M-CHに周波数が記憶されます。
このとき、"SKIP"が設定され、999チャンネルから小さい番号の順に記憶されます。

■オートメモリーライトスキャンのしかた

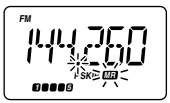
◆スタート操作

① [V/M](SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
② [CALL](MODE·SCAN)を長く(約1秒)押します。
③ [DIAL]を回して、スキャン範囲"ALL"/"BAND"/"PROG 0～24"を選びます。
- ALL　：フルスキャン動作となります。
- BAND　：バンドスキャン動作となります。
- PROG 0～24　：プログラムスキャン動作となります。

④ 選択後、[CALL](MODE·SCAN)を短く押すと、スキャンを開始します。
⑤ [V/M](SKIP·S.MW)を短く押すと、" MR "表示が点滅して、オートメモリーライトスキャン動作となります。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトスキャンへの切り替えはできません。
※再度押すと、オートメモリーライトスキャンを解除します。
⑥ 信号を受信すると、5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(◆000)に書き込みます。(書き込み時ビープ音が"ピッピッ"と鳴ります。)
書き込みが終わると自動的に再スタートします。
※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ビープ音を"ピー"と鳴らしてスキャンを解除します。

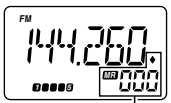
※スキャン中に[BAND](TS･LOCK)を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
※VFOスキャン中に信号を受信するたびに、その周波数をオートメモリーライト用チャンネル(◆000～◆199)へ自動的に順次書き込みます。

信号を受信してスキャンが一時停止する



一時停止が約5秒間続くとビープ音がなり、オートメモリーライト用チャンネルに書き込みスキャンが再スタートする

書き込み後の表示
(スキャン中は表示しない)



オートメモリーライト用チャンネル

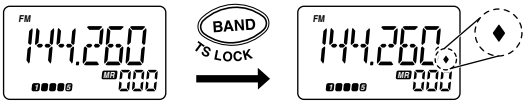
◆ストップ操作

- [CALL](MODE･SCAN)を短く押します。

◆オートメモリーライト用チャンネルの呼び出し

① [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND](TS･LOCK)を押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。(“◆”表示が点灯します。)
③ [DIAL]を回して、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。

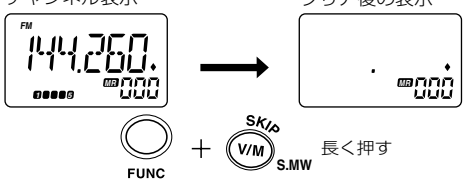
メモリーモード表示　　オートメモリーライト用チャンネル表示



◆オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作

① [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND](TS･LOCK)を押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。(“◆”表示が点灯します。)
③ [FUNC]を押しながら[V/M](SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押すと、すべてのオートメモリーライト用チャンネルをクリアします。なお、1CHごとのクリアは出来ません。

オートメモリーライト用チャンネル表示　　クリア後の表示



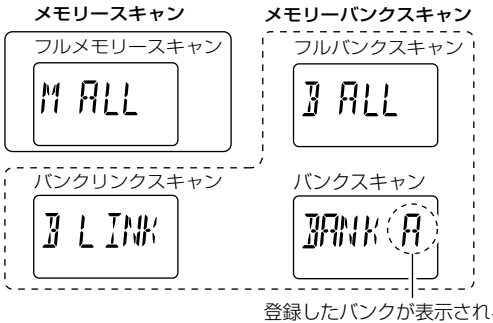
■メモリースキャンのしかた

メモリースキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。
メモリースキャンは**「メモリースキャン」**、**「メモリーバンクスキャン」**があります。
スキップチャンネルに指定したM-CH(SKIPまたはPSKIP表示が点灯)は、スキャンスタート操作をしたときに、そのM-CHを飛び越えてスキャンします。PROGRAM-CHはスキャンしません。

◇ メモリースキャンの操作

◆スタート操作

① **[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② **[CALL]**(MODE･SCAN)を長く(約1秒)押すと、**M ALL**/**B ALL**/**B LINK**/**BANK A～Y** を表示し、**[DIAL]**を回して、**M ALL**を選択します。



③**[CALL]**(MODE･SCAN)を短く押して、フルメモリースキャンを開始します。

◆ストップ操作

● **[CALL]**(MODE･SCAN)を短く押して、スキャンを終了します。

◇ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

メモリースキャン時に、スキャンの対象からはずしたいチャンネルを、飛び越す(スキップ)ように指定する機能です。

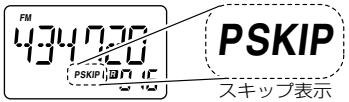
① **[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② **[BAND]**(TS･LOCK)を押して、メモリーモード表示を選択します。
③ **[DIAL]**を回して、スキップを指定するCHの選択、またはスキップを解除するCHを選択します。
④ **[FUNC]**を押しながら**[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押すごとに、**"*SKIP*" →"*PSKIP*"→"消灯"**(解除)と表示が切り替わります。

- **SKIP/P SKIP点灯**：メモリースキャン時、指定したM-CHをスキップします。

※なお、M-CHに**"*PSKIP*"**を指定すると、VFOスキャン時、その周波数をスキップします。
※メモリースキャン時、信号を受信してスキャンが一時停止したときに、そのM-CHをメモリースキャンの対象からはずしたい場合は、**[FUNC]**を押しながら**[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押して、スキップを指定することもできます。

◆スキップチャンネルの解除

上記を操作して、**"*SKIP*"**または**"*PSKIP*"** 表示を消灯させてください。



【ご注意】2ch以上M-CHが書き込まれていないときは、メモリースキャンは動作しません。

■メモリーバンクスキャンのしかた

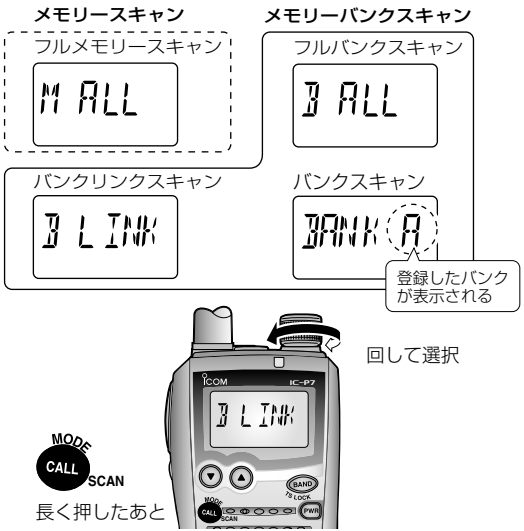
メモリーバンクスキャンには、フルバンクスキャンとバンクリンクスキャンとバンクスキャンがあります。

※ スキップが指定されたチャンネルは飛び越えてスキャンします。
※ 編集したバンクのすべてのチャンネルに**“SKIP”**が指定されている場合、そのバンクはスキップされます。
※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

◇ フルバンクスキャン/バンクリンクスキャン/バンクスキャンの操作

◆スタート操作

① **[V/M]**(SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。



② **[CALL]**(MODE·SCAN)を長く(約1秒)押したあと、**[DIAL]**を回して**「B ALL」**または**「B LINK」**、**「BANK A」**を選択します。
- ●B ALL　：すべてのバンクをスキャンします。
- ●B LINK　：指定したバンクをリンクしてスキャンします。
- ●BANK A　：指定したバンクのみをスキャンします。

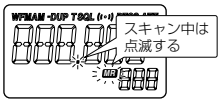
※なお、バンクスキャン中に**[BAND]**(TS·LOCK)を押して、バンクを切り替えることができます。

③ 選択後、**[CALL]**(MODE·SCAN)を短く押すと、フルバンクスキャン、バンクリンクスキャンまたはバンクスキャンを開始します。

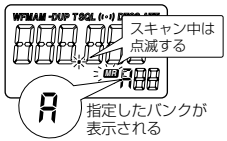
※指定したバンクの全てに**“SKIP”**が指定されている場合は、最初のチャンネルでスキャンは停止します。

◆ストップ操作

フルバンクスキャン中の表示



バンクスキャン中の表示



- **[CALL]**(MODE·SCAN)を短く押して、スキャンを終了します。

■メモリーバンクのリンクについて

◇ メモリーバンクの設定

M-CHを編集するメモリーバンクを設定します。

- **A-ON - - - -** ：A～Yの中から選択します。
  (初期設定値：バンクA-ON)

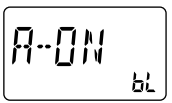
※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。(☞P35)

◇ メモリーバンクのリンク設定

メモリーバンクのリンク機能を設定します。
リンク機能によりバンクスキャン選択時、リンクONにしているすべてのメモリーバンクだけをスキャンします。

- **ON** ：メモリーバンクをリンクします。(初期設定値)
- **OFF** ：メモリーバンクをリンクしません。

※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。



バンクAリンク
設定ON

●各バンクのリンクを設定する

① **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT･SET)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
② バンクリンクの設定**(B LINK)**を選択し、**[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**をまわして、リンクするバンクを選択します。
③ **[CALL]**(MODE･SCAN)を短く押して、リンクの“ON/OFF”を選択します。

バンクの種類(18個)

バンクA	バンクL
バンクB	バンクN
バンクC	バンクO
バンクD	バンクP
バンクE	バンクQ
バンクF	バンクR
バンクG	バンクT
バンクH	バンクU
バンクJ	バンクY

■プライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

種　類	動 作 の 内 容
VFO周波数とメモリーモードで選択したM-CHまたはチャンネル	VFO周波数を受信しながら、指定M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの信号の有無を受信(監視)します。(☞P47)
VFOスキャンとメモリーモードで選択したM-CHまたはチャンネル	VFOスキャンをしながら、指定M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの信号の有無を受信(監視)します。(☞P48)
VFO周波数とメモリースキャンまたはバンクスキャン	VFO周波数を受信しながら、スキャン中のM-CHまたはバンクチャンネルを順次受信(監視)します。(☞P49)
VFOスキャンとメモリーまたはバンクスキャン	VFOスキャンをしながらメモリーまたはバンクの両スキャンで信号の有無を受信(監視)します。(☞P50)
TV-CHとメモリーモードで選択したM-CHまたはチャンネル	TV-CHを受信しながら、指定M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの信号の有無を受信(監視)します。(☞P51)

◇ プライオリティベル機能について

プライオリティベル機能とは、プライオリティCHで信号を受信したとき、**“ピロピロピ”**というベル音を鳴らして、ベルマーク**“((•))”**が点滅します。

① **[FUNC]**を押しながら**[SQL](ATT・SET)**を長く(約1秒)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
② **[DIAL]**を回して、**“PRIO”**項目を選択します。

③ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**“BELL”**を選択します。

※続けてSETモードを設定するときは、**[DIAL]**を回します。(設定項目を表示します。)
その後、③を操作して、設定内容を選択します。

④ 選択後、**[SQL](ATT・SET)**を短く押します。
“PRIO ”表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。

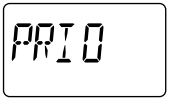
8 プライオリティスキャンのしかた

■VFO周波数を受信中にM-CHを受信する

VFO周波数を聞きながら5秒に1回、特定のM-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを瞬時受信します。

① VFOモードで受信する周波数を設定します。
② **[V/M]**(SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
[DIAL]を回して、受信したいM-CHを設定します。
※**[V/M]**(SKIP･S.MW)を押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。
次に**[DIAL]**を回して、M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。
※①と②の操作はどちらが先でもかまいません。
③ **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT･SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
④ **[DIAL]**を回して、**"PRIO"**項目を選択します。
⑤ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**"ON"**か**"BELL"**を選択します。
⑥ 選択後、**[SQL]**(ATT･SET)を押すと**"*PRIO* "**表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑦ 信号を受信すると、表示部に**"((･))"**表示が点滅します。
⑧ **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT･SET)を短く押すと、プライオリティスキャンを解除します。

PRIO表示

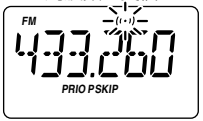


BELL表示

ATT SQL SET を押して戻る

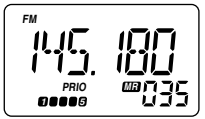
◎動作の概略

VFO周波数を受信しながら



5秒間に1回、M-CHを瞬時ワッチする

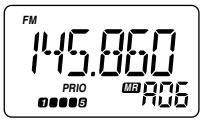
M-CHで信号を受信すると、一時停止する



VFO周波数を受信しながら

5秒間に1回、M-CHを瞬時ワッチする

バンクチャンネルで信号を受信すると、一時停止する



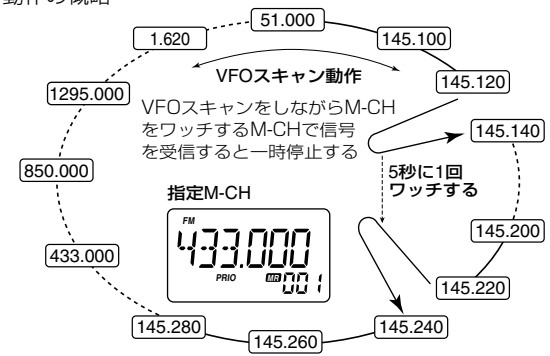
※ M-CHとバンクチャンネル以外にオートメモリーライト用チャンネルも選択できます。

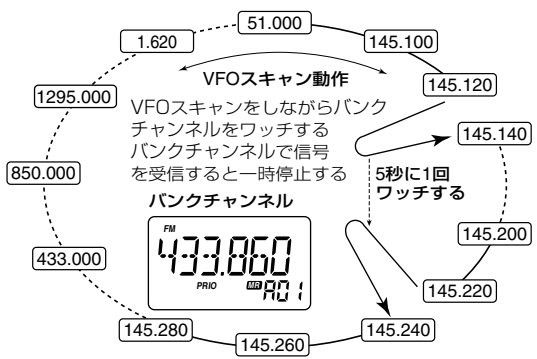
■VFOスキャン中にM-CHを受信する

VFOスキャンをしながら5秒に1回、特定のM-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを瞬時受信します。

① [V/M] (SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
[DIAL]を回して、受信したいM-CHを設定します。
※ [BAND] (TS·LOCK)を押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。
次に[DIAL]を回して、受信したいM-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。
② [V/M] (SKIP·S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
③ [CALL] (MODE·SCAN)を長く(約1秒)押して、VFOスキャンモードにします。
④ [DIAL]を回して、フルスキャン、バンドスキャン、プログラムスキャンのいずれかを選択します
⑤ [CALL] (MODE·SCAN)を短く押して、VFOスキャンをスタートさせます。
⑥ [FUNC]を押しながら[SQL] (ATT·SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
⑦ [DIAL]を回して、“PRIO”項目を選択します。
⑧ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”か“BELL”を選択します。
⑨ 選択後、[SQL] (ATT·SET)を短く押すと“*PRIO* ”表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑩ [FUNC]を押しながら[SQL] (ATT·SET)を短く押すと、プライオリティスキャンとVFOスキャンを解除します。

◎動作の概略





※ M-CHとバンクチャンネル以外にオートメモリーライト用チャンネルも選択できます。

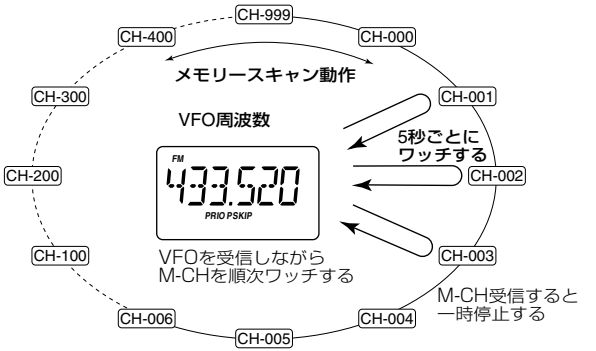
8 プライオリティスキャンのしかた

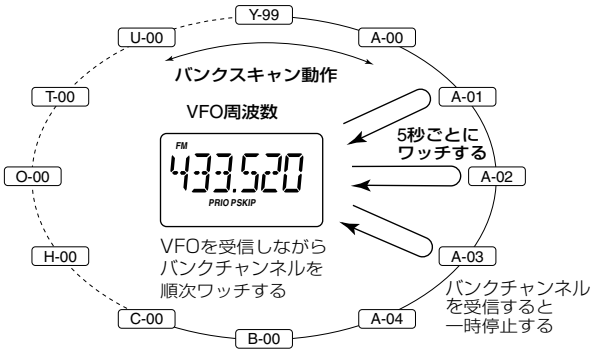
■VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する

VFO周波数を受信しながら、5秒に1回特定のM-CHまたはバンクチャンネルを順次切り替えて受信します。

① VFOモードで受信する周波数を設定します。
② [V/M] (SKIP·S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
※[BAND] (TS·LOCK)を短く押して、メモリーモード表示またはバンク表示を選択します。
③ [CALL] (MODE·SCAN)を長く(約1秒)押して、選択した表示のメモリースキャンモードにします。
④ [DIAL]を回して、フルメモリースキャン、フルバンクスキャン、バンクリンクスキャン、バンクスキャンのいずれかを選択します
⑤ [CALL] (MODE·SCAN)を短く押して、メモリースキャンをスタートさせます。
⑥ [FUNC]を押しながら[SQL] (ATT·SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
⑦ [DIAL]を回して、"PRIO"項目を選択します。
⑧ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、"ON"か"BELL"を選択します。
⑨ 選択後、[SQL] (ATT·SET)を短く押すと"*PRIO* "表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑩ [FUNC]を押しながら[SQL] (ATT·SET)を短く押すと、プライオリティスキャンとメモリースキャンを解除します。

◎動作の概略



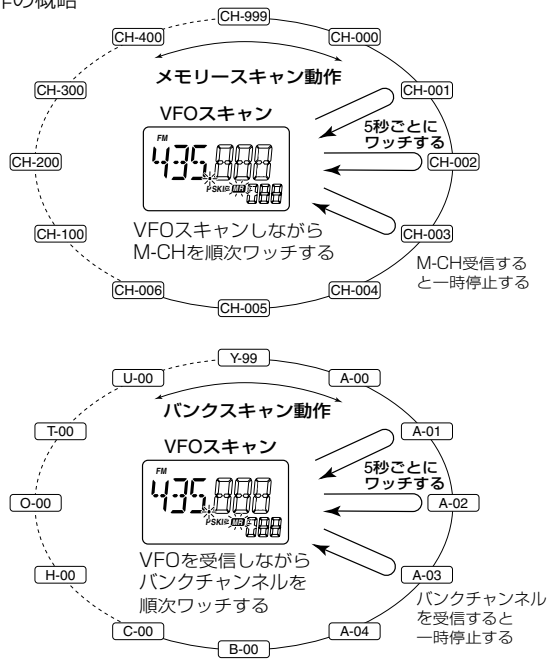


■VFO/メモリー両スキャンで受信する

VFOスキャン中にM-CHまたはバンクチャンネルを順次スキャンして受信します。

① [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
※[BAND](TS･LOCK)を押して、メモリーモード表示またはバンク表示を選択します。
② [CALL](MODE･SCAN)を長く(約1秒)押して、選択した表示のメモリースキャンモードにします。
③ [DIAL]を回して、フルメモリースキャン、フルバンクスキャン、バンクリンクスキャン、バンクスキャンのいずれかを選択します
[ご注意]必ずメモリースキャンまたはバンクスキャンを先にスタートさせてください。VFOスキャンを先にスタートさせると、両スキャンは動作しません。
④ [CALL](MODE･SCAN)を短く押して、メモリースキャンをスタートさせます。
⑤ [FUNC]を押しながら[SQL](ATT･SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
⑥ [DIAL]を回して、**"PRIO"**項目を選択します。
⑦ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**"ON"**か**"BELL"**を選択します。
⑧ 選択後、[SQL](ATT･SET)を短く押すと***"PRIO "***表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑨ [CALL](MODE･SCAN)を押しながら[DIAL]を回して、**"ALL"**、**"BAND"**、**"PROG 0～24"**のいずれかを選択します。
⑩ 選択後、[CALL](MODE･SCAN)を押すと***"PRIO "***表示が点灯して、両スキャンによるプライオリティになります。
※VFO/M-CHのどちらで信号を受信しても、一時停止になります。
※[V/M](SKIP･S.MW)を短く押すとオートメモリーライトスキャンとなる
⑪ [FUNC]を押しながら[SQL](ATT･SET)を短く押すと、プライオリティスキャンおよびVFOスキャンとメモリースキャンも解除します。

◎動作の概略



8 プライオリティスキャンのしかた

■TV-CHを受信しながらM-CHを受信する

TV-CHを受信しながら5秒に1回、M-CHを受信します。

① VFOモードにします。
※[BAND](TS･LOCK)を押して、TV-CHモードにします。
※次に、[DIAL]を回して、TV-CHを選択します。

② [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
[DIAL]を回して、受信したいM-CHを設定します。
※[BAND](TS･LOCK)を押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。
次に[DIAL]を回して、M-CH(バンクチャンネル)を選択します。
※①と②の操作はどちらが先でもかまいません。

③ [FUNC]を押しながら[SQL](ATT･SET)を長く(約1秒)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)

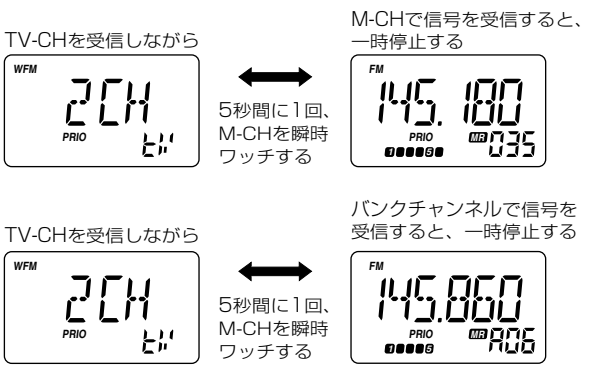
④ [DIAL]を回して、“PRIO”項目を選択します。

⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”か“BELL”を選択します。

⑥ 選択後、[SQL](ATT･SET)を短く押すと“*PRIO* ”表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。

⑦ [FUNC]を押しながら[SQL](ATT･SET)を短く押すと、プライオリティスキャンを解除します。

◎動作の概略



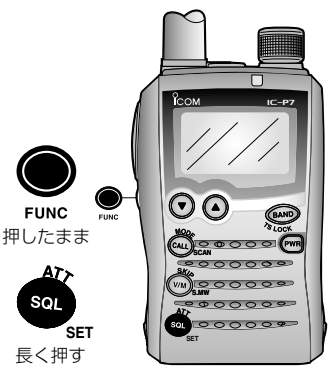
※ M-CHとバンクチャンネル以外にオートメモリーライト用チャンネルも選択できます。

■ SETモードの設定方法

初期設定されている運用条件を、運用する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するモードです。

なお、EXPAND(拡張機能)のSETモードにより、さらに多彩な運用条件を設定できます。

各項目で変更できる運用条件を次のページから記載しておりますので、このページと併せてご覧ください。

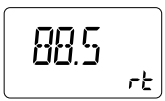


◇ SETモードにする

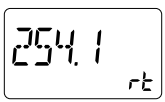
① [FUNC]を押したまま[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押します。(設定項目を表示します。)

② [DIAL]を回して、設定項目を選択します。
表示は約1秒後、設定内容表示に変わります。(右は“R TONE”の場合)

③ 設定内容が表示されます。



④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
※続けてSETモードを設定するときは、②～④を繰り返し操作してください。

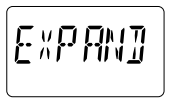


⑤ [SQL](ATT・SET)を短く押します。
周波数表示に戻ります。

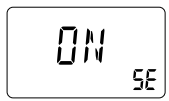
◇ EXPAND(拡張機能)の選択

① [FUNC]を押したまま[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押します。
(設定項目を表示します。)

② [DIAL]を回し、「EXPAND」の設定項目を選択します。



③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。
※“OFF”を選択するとEXPAND(拡張機能)SETモードの項目は表示されません。



④ [DIAL]を回して、拡張設定項目を選択します。

⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。

⑥ [SQL](ATT・SET)を短く押します。
周波数表示に戻ります。

9 SETモードの設定

■ 設定項目の一覧表

初期設定されている運用条件を、運用する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するためのモードです。

◇ SETモード項目

SETガイド	S E T 項 目	
R TONE	1.レピータトーン周波数の設定	(☞P55)
C TONE	2.トーンスケルチ周波数の設定	(☞P55)
CODE	3.DTCSコードの設定	(☞P55)
D SEL	4.ダイヤルセレクトの設定	(☞P56)
OFFSET	5.オフセット周波数の設定	(☞P56)
T/TSQL※	6.トーン選択の設定	(☞P56)
DUP	7.レピータ(デュプレクス)の設定	(☞P56)
PRIO	8.プライオリティウォッチの設定	(☞P57)
BEEP	9.ビープ音(操作音)の設定	(☞P57)
BEEPLV	10.ビープ音量の設定	(☞P57)
LIGHT	11.バックライトの設定	(☞P57)
P SAVE	12.パワーセーブの設定	(☞P58)
EXPAND	13.SET項目拡張の設定	(☞P58)

※デコードのみとエンコード/デコードを分けます。
但し、1つの機能しか設定できません。TONEが設定されている状態でTRAINを設定すればTONEは解除されます。

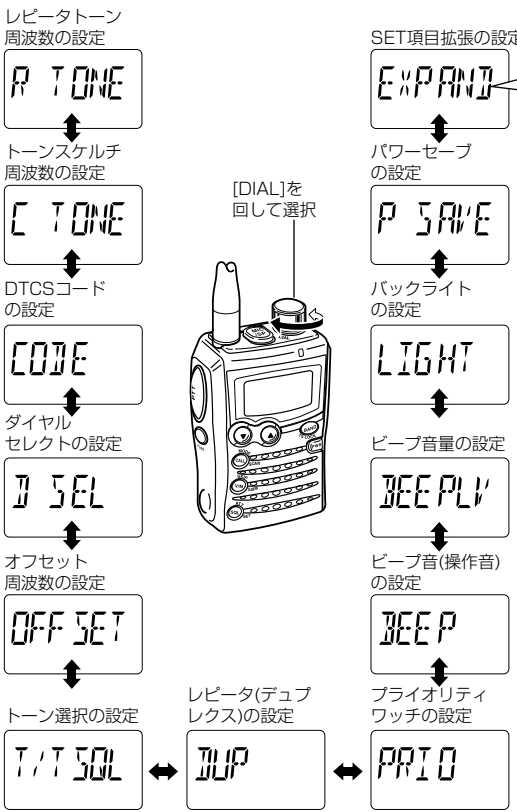
◇ EXPAND SETモード項目

SETガイド	S E T 項 目	
LOCK	14.キーロック機能の設定	(☞P58)
SPEED	15.ダイヤルスピード機能の設定	(☞P58)
MONI	16.モニター(SQL)ホールド機能の設定	(☞P59)
AP OFF	17.オートパワーオフ機能の設定	(☞P59)
PAUSE	18.スキャン一時停止タイマー設定	(☞P59)
RESUME	19.スキャン再スタートタイマーの設定	(☞P59)
STOP B	20.スキャン停止時ビープ音の設定	(☞P60)
AUTORP	21.オートレピータ機能の設定	(☞P60)
SQL	22.キャンセラー機能の設定	(☞P60)
TFRQ※	23.空線信号の周波数設定	(☞P60)
DTCS P	24.DTCS極性の設定	(☞P61)
B LINK	25.バンクリンクの設定	(☞P61)
CONT	26.表示部のコントラストの設定	(☞P61)

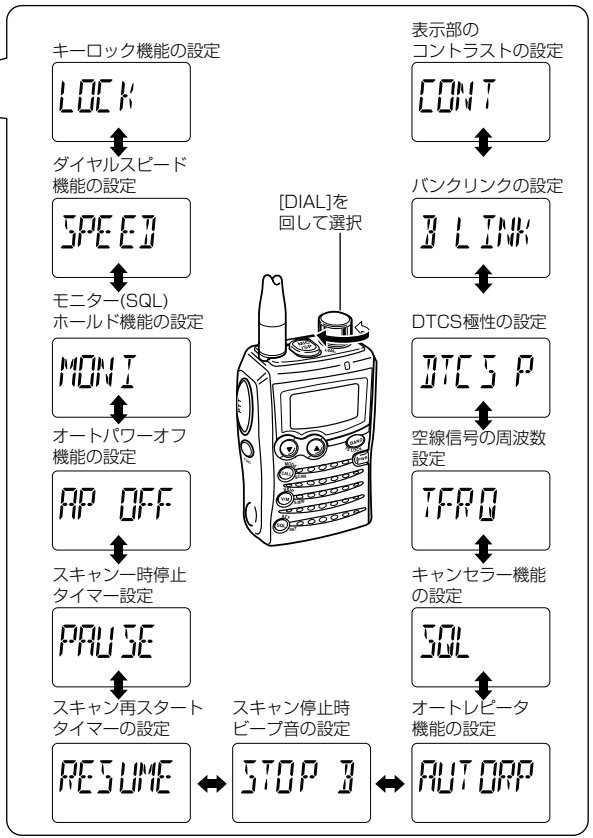
※空線信号の周波数設定は、**「キャンセラー機能の設定」**で**"TRAIN"**を選択した時のみ設定できます。

■ SETモードの設定項目

◆SETモード



◆EXPAND SETモード



9 SETモードの設定

■ 設定項目の詳細について

設定表示例の上側が初期設定値です。

1. レピータトーン周波数の設定

レピータ用のトーン周波数を設定する項目です。
(初期設定値：88.5Hz)

- **67.0Hz～254.1Hz**の50波の中から選択します。

トーン周波数一覧表(単位：Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

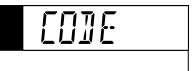
2. トーンスケルチ周波数の設定

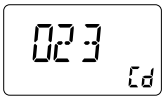
トーンスケルチ(CTCSS)用トーンを設定する項目です。ポケットビープを運用する場合も、このトーンを使用します。
(初期設定値：88.5Hz)

- **67.0Hz～254.1Hz**の50波の中から選択します。

上に記載の**「トーン周波数一覧表(単位：Hz)」**を参照ください

3. DTCSコードの設定





DTCSコードスケルチ通信を受信するための、DTCSコードを設定します。
(初期設定値：023)

- **023～754**の104波の中から選択します。

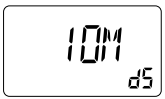
DTCSコード一覧表

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

4. ダイヤルセレクトの設定

D SEL

周波数を大きく変える操作で、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回したときの、周波数ステップを選択する項目です。
(初期設定値：1M)



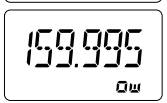
- **100K**：100KHzステップにします。
- **1M**　：1MHzステップにします。
- **10M**　：10MHzステップにします。

5. オフセット周波数の設定

OFF SET

デュプレックスモードでの、オフセット周波数を設定する項目です。

- **0～159.995MHz**の範囲で設定できます。



※バンド別に設定できます。
※バンドごとに初期設定値が異なります。
※すべてのメモリーチャンネルに独立してオフセット周波数の設定を記憶できます。
※VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P19)で動作します。

6. トーン選択の設定

T/T SQL

レピータ用トーン(トーンエンコーダー)やトーンスケルチ(CTCSSトーン)を使用したトーン運用モードを設定する項目です。
(初期設定値：OFF)

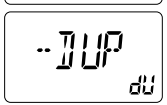
- **OFF**　：トーンを使用しない
- **TONE**　：レピータトーン運用モードにする
- **TSQL**　：トーンスケルチ運用モードにする
- **P BEEP**：ポケットビープ運用モードにする
- **DTCS**　：DTCSコード運用モードにする
- **P DTCS**：ポケットDTCSコード運用モードにする

※バンド別に設定できます。

7. レピータ(デュプレクス)の設定

DUP

送信と受信で異なった周波数を使用するデュプレックスモードを設定するための項目です。
(初期設定値：OFF)



- **OFF**　：デュプレックスを使用しない。
- **－DUP**：受信周波数より送信周波数を低くしたモードです。
- **＋DUP**：受信周波数より送信周波数を高くしたモードです。

※バンド別に設定できます。
運用の参照ページ(☞P26)

8. プライオリティワッチの設定

PRIO

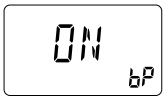
プライオリティスキャンの**"ON/OFF"**およびプライオリティベルを選択する項目です。
(初期設定値：OFF)

- **OFF** ：動作しません。
- **ON** ：プライオリティスキャンをします。
- **BELL** ：プライオリティチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマーク**"((•))"**表示の点滅で受信を知らせます。

9. ビープ(操作音)の設定

BEEP

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定する項目です。
(初期設定値：ON)

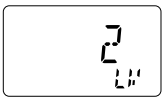


- **ON** ：ビープ音を鳴らします。
- **OFF** ：鳴りません。

10. ビープ音量の設定

BEEPLV

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音の音量を設定する項目です。前項目**「9.操作音の設定」**が**"ON"**のとき有効です。
(初期設定値：2)

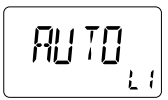


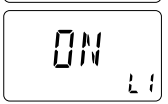
- **0～7**の中から選択します。
  [DIAL]を回して音量を調整します

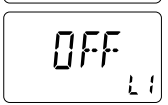
11. バックライトの設定

LIGHT

キー操作時に表示部のバックライトを点灯するか、しないかを設定します。
(初期設定値：AUTO)







- **AUTO** ：キー操作時に自動点灯します。なお、5秒間操作しない状態が続くと消灯します。
- **ON** ：常時点灯します。
- **OFF** ：点灯しません。

↓ここからEXPAND SET 項目です。

12. パワーセーブの設定

P SAVE

電池の消耗を防ぐためパワーセーブ機能を設定します。
(初期設定値：ON)

- **ON** ：無信号状態が5秒続くと“1:4 (125msec:500msec)”の比率でパワーセーブ機能を開始し、さらに無信号の状態が60秒続くと“1:8(125msec:1sec)”の比率で動作します。
- **OFF** ：パワーセーブが動作しません。

13. SET項目拡張の設定

EXPAND

SETモードの拡張項目を設定するための項目です。
(初期設定値：OFF)

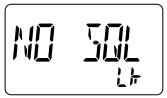
- **OFF**：初期項目だけを表示する。
- **ON** ：初期項目と拡張項目を表示する。

※拡張機能(EXPAND)を**“ON”**にした後の項目は、右記(14項)以降で設定できます。

14. キーロック機能の設定

LOCK

[DIAL]および**キー**の操作を無効にするキーロック機能を設定する項目です。
(初期設定値：NORMAL)

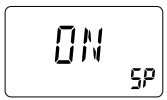


- **NORMAL**：音量の[▲]/[▼]、**[SQL](ATT·SET)**を除くキーをロックします。
- **NO SQL** ：**[SQL](ATT·SET)**を除くキーをロックします。
- **NO VOL** ：音量の**[▲]**/**[▼]**を除くキーをロックします。
- **ALL** ：すべての**キー**をロックします。

15. ダイヤルスピード機能の設定

SPEED

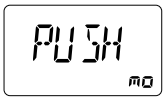
[DIAL]を早く回したときだけ、更にスピードアップするダイヤルスピード機能を選択します。
(初期設定値：ON)



- **ON** ：スピードアップします。
- **OFF**：**[DIAL]**を回す速度に合わせます。

16. モニター(SQL)ホールド機能の設定 MONI

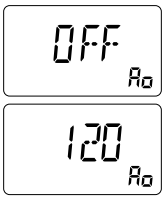
[SQL](ATT・SET)の機能(スケルチを開いて受信をする)が、キーを押している間動作させるか、1回押すごとに"ON/OFF"させるかを設定します。
(初期設定値：PUSH)



- PUSH ：押している間だけスケルチを開きます。
- HOLD ：1回押すとモニターを"ON"にし、もう一度押すことにより"OFF"にします。

17. オートパワーオフ機能の設定 AP OFF

自動的に電源を"OFF"するオートパワーオフ機能を設定します。キー操作のない状態が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。(初期設定値：OFF)



- OFF ：オートパワーオフ機能が動作しません。
- 30 ：30分後に電源を切ります。
- 60 ：60分後に電源を切ります。
- 90 ：90分後に電源を切ります。
- 120 ：120分後に電源を切ります。

※ オートパワーオフで電源が切れた場合に、再度電源を入れたときは、オートパワーオフ機能は有効です。

18. スキャン一時停止タイマーの設定 PAUSE

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。
設定時間だけ受信を続け、設定時間を過ぎると再スタートします。
(初期設定値：10秒)

- 2～20 ：2～20秒のタイマー設定が約2秒毎に設定できます。
  なお、停止中に信号がなくなると、次項スタートタイマーの条件で再スタートします。
- HOLD ：信号を受信中は一時停止を続け、信号がなくなると再スタートします。

19. スキャン再スタートタイマーの設定 RESUME

スキャンが一時停止後、信号が途切れてからの再スタートの条件(時間)を設定する項目です。
(初期設定値：2秒)

- 0 ：信号がなくなると同時に再スタートします。
- 1～5 ：信号がなくなると1～5秒の各設定時間後再スタートします。
- HOLD ：信号がなくなっても一時停止状態を保持します。
  (再スタートは[DIAL]操作)

20. スキャン停止時ビープ音の設定

STOP B

各種スキャンが停止したときに、ビープ音を鳴らすか、鳴らさないかを設定します。
(初期設定値：OFF)

- **OFF** ：スキャンが停止しても、ビープ音は鳴りません。
- **ON** ：スキャンが停止するとビープ音を鳴らします。

21. オートレピータ機能の設定

AUTORP

430MHz帯のオートレピータ機能を**"ON/OFF"**する機能です。
この項目は、VFOモードからSETモードにしてください。
(初期設定：ON)

- **ON** ：オートレピータを使用する
- **OFF** ：オートレピータを使用しない

22. キャンセラー機能の設定

SQL

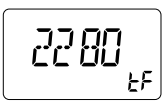
空線信号、MSK制御音をキャンセルする項目です。
(初期設定：OFF)

- **OFF** ：キャンセラー機能を使用しません。
- **TRAIN** ：空線信号をキャンセルする場合に選択します。
- **MSK** ：MCAの制御音をキャンセルする場合に選択します。

23. 空線信号の周波数設定

TFRQ

空線信号の周波数を設定します。
(初期設定：2280Hz)



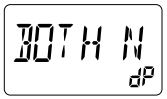
- **300～3000**：10Hzステップで設定できます。

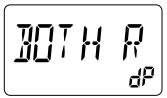
※前項目**「22.キャンセラー機能の設定」**で**「TRAIN」**が選択されているときに設定が可能となります。

24. DTCS極性の設定

DTCS P

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送出または検出の極性を設定します。
(初期設定値：BOTH N)



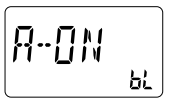


- **BOTH N** ：送信/受信とも反転しません。
- **TN-RR** ：送信側を反転しないで、受信側を反転します。
- **TR-RN** ：送信側を反転し、受信側は反転しません。
- **BOTH R** ：送信受信とも反転します。

25. バンクリンクの設定

B LINK

リンク機能によりバンクスキャン選択時、登録しているすべてのメモリーバンクをスキャンできます。
リンクしたいバンクは**[FUNC]**押しながら**[DIAL]**を回して選びます。リンクしたいバンクに合わせたら**[CALL]**(MODE･SCAN)を短く押して**"ON/OFF"**を選択します。
(初期設定値：ON)



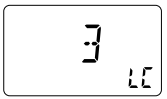
- **ON** ：リンクする
- **OFF** ：リンクしない

※バンク数はバンクA～バンクYの18個です。
※登録しているバンク以外は設定できません。

26. 表示部のコントラストの設定

CONT

表示部のコントラストを設定します。
(初期設定値：3)



- **1～4**：1(淡)～4(濃)の範囲で設定できます。

■ トーンスケルチ機能の使いかた

◆ トーン機能とは

送信周波数にCTCSSトーン周波数またはDTCSコードを重畳して送出し、受信時には重畳されたトーン周波数またはDTCSコードを検出したときのみ、受信回路を動作させ、特定局の個別呼び出しを行う便利な機能です。

◆ トーンスケルチ機能とは

特定の相手局と交信するときに便利な機能です。
自局が設定したトーン周波数またはDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。

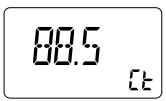
◆ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ機能での待ち受け受信中、呼び出しを受けたらビープ音で知らせてくれる便利な機能です。
呼び出しを受けると、ビープ音**“ピロピロピロ”**が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイの**“((•))”**を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことがありません。

◆ CTCSSトーン周波数を設定する

① **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT・SET)を長く(約1秒)押し、SETモードにします。(設定項目を表示します)
② **[DIAL]**を回し、「トーンスケルチ周波数の設定**(C TONE)**」項目を呼び出します。

③ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**をまわして、トーン周波数を選択します。

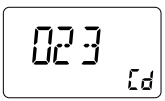


④ **[SQL]**(ATT・SET)を短く押し、SETモードを解除します。

◆ DTCSコードを設定する

① **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT・SET)を長く(約1秒)押し、SETモードにします。(設定項目を表示します)
② **[DIAL]**を回し、「DTCSコードの設定**(CODE)**」項目を呼び出します。

③ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**をまわして、DTCSコードを選択します。



④ **[SQL]**(ATT・SET)を短く押し、SETモードを解除します。

10 トーン機能/DTCS機能について

■ トーンスケルチ機能の使いかた(つづき)

◇ トーン選択の設定をして交信する

① [FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押し、SETモードにします。
② [DIAL]を回して「トーン選択の設定(T/TSQL)」項目を選択します。
③ [FUNC]を押しながら、[DIAL]を回して設定項目を選択します。
- ●OFF　：トーンを使用しない（初期設定値：OFF)
- ●TONE　：レピータトーン運用モードにする
- ●TSQL　：トーンスケルチ運用モードにする
- ●P BEEP　：ポケットビープ運用モードにする
- ●DTCS　：DTCSコードスケルチ運用モードにする
- ●P DTCS　：ポケットDTCSコード運用モードにする

OFFのとき

トーンスケルチ

DTCSコード運用

レピータトーン

ポケットビープ機能

DTCSコードの
ポケットビープ機能

④ [PTT]を押して相手局を呼び出し、通常の運用と同様に交信します。

◇ 待ち受け受信のときは

ポケットビープ機能で呼び出しを受けたら、30秒以内に[PTT]を押して通話するか、[SQL](ATT・SET)を押してポケットビープ機能を解除(“((•))”が消灯する)し、トーンスケルチ機能にします。
また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、“((•))”は点滅状態を続け、呼び出されたことを知らせます。

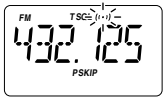
●トーンスケルチ機能が“ON”のとき

※ スケルチが開き、相手局からの呼び出し音が聞こえます。

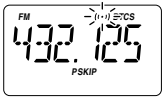
●ポケットビープ機能が“ON”のとき

※ ビープ音が30秒間鳴り続け、応答しなかったときは“((•))”が点滅を続けます。

トーンスケルチによる
ポケットビープ機能



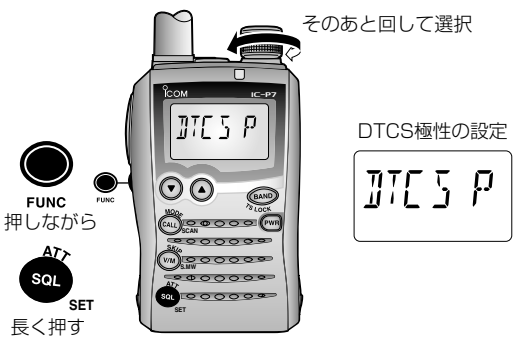
コードスケルチによる
ポケットビープ機能



■DTCS極性反転機能について

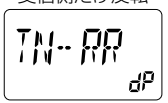
交信する相手局に合わせて、DTCSコードの極性を設定できます。
DTCS極性反転機能は、SETモードで変更できます。

① **[FUNC]**を押しながら**[SQL]**(ATT・SET)を長く(約1秒)、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② **[DIAL]**を回して、**「EXPAND(機能拡張)」**項目を選択します。
③ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**"ON"**を選択します。
④ **[DIAL]**を回して、**「DTCS極性の設定(DTCS P)」**項目を選択します。

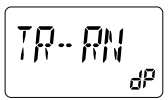


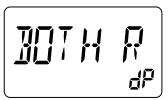
⑤ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、下記の中から選択します。(初期設定値：BOTH N)
- **BOTH N** ：送受信ともに反転しない
- **TN-RR** ：受信だけ反転する
- **TR-RN** ：送信だけ反転する
- **BOTH R** ：送受信ともに反転する

送受信とも反転しない　受信側だけ反転



送信側だけ反転　送受信とも反転する





⑥ **[SQL]**(ATT・SET)を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

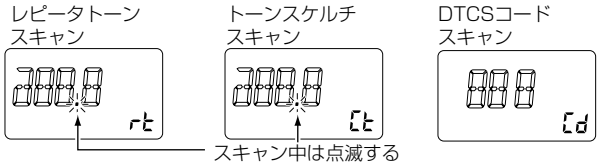
■トーンスキャンのしかた

相手局が使用しているレピータトーン周波数、トーン周波数またはDTCSコードを検知するスキャンです。

◆スタート操作

① 前記の**「◇トーン選択の設定をして交信する」**(☞P63)にしたがって、レピータトーン、トーンスケルチ、コードスケルチを設定します。
※トーンスケルチ、コードスケルチを設定していない場合は、レピータトーンスキャンになります。

② **[FUNC]**を押しながら**[CALL]**(MODE･SCAN)を長く(約1秒)押すと、レピータトーンスキャン、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンを開始します。



※スキャン中に**[DIAL]**を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。

※VFOモード時は、一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと、スキャンを再スタートします。ただし、M-CHでスキャンを行ったときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

※ポケットビープ状態から、トーンスキャンを行うとポケットビープを解除し、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンになります。

※隣接したトーン周波数を使用している局がいると、トーンスケルチが開くことがあります。

◆ストップ操作

[CALL](MODE･SCAN)を短く押します。

※ 周波数表示に戻ります。

※ トーン周波数を検知(一時停止)する前にストップ操作をしたとき、トーン周波数は書き替わりません。

● トーン周波数一覧表　　単位：Hz

67.0	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
69.3	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	
82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3	

● コード一覧表

023	065	132	205	255	331	413	465	612	731
025	071	134	212	261	332	423	466	624	732
026	072	143	223	263	343	431	503	627	734
031	073	145	225	265	346	432	506	631	743
032	074	152	226	266	351	445	516	632	754
036	114	155	243	271	356	446	523	654	
043	115	156	244	274	364	452	526	662	
047	116	162	245	306	365	454	532	664	
051	122	165	246	311	371	455	546	703	
053	125	172	251	315	411	462	565	712	
054	131	174	252	325	412	464	606	723	

■LCDバックライト調整について

表示部の表示を見やすくするために、キー操作をするたびにLCDバックライト(照明)を点灯させています。

※SETモードの**「バックライトの設定」**項目(☞P57)で、AUTO(初期設定値)、ON、OFFの中から設定できます。

■ビープ音について

キー操作をしたとき、その操作が有効か無効かを、下記のようにビープ音で知らせる機能です。

- **ビープ音の種類**
  - **"ピッ"** ：短く押すキー操作が正しいとき
  - **"ピッ、ピー"** ：長く(約1秒)押すキー操作が正しいとき
  - **"プッ"** ：キー操作が無効のとき
  - **"ピッ ピピ"** ：メモリー書き込み操作が正しいとき

※SETモードの**「ビープ(操作音)レベルの設定」**項目(☞P57)でビープレベルの設定、**「ビープ音量の設定」**項目(☞P57)で、ビープ音の**"ON/OFF"**が設定できます。

■LCDコントラスト調整について

周囲の明るさに応じて、表示部のコントラスト(明るさ)を調整できます。

※EXPAND(機能拡張)SETモードの**「表示部のコントラストの設定」**項目(☞P61)で、1(薄い)、2(やや薄い)、3(標準：初期設定値)、4(濃い)の中から設定できます。

■ダイヤルスピード機能の使いかた

[DIAL]をゆっくり回しているときは、設定したTS(チューニングステップ)で動作します。

速く回したときに、周波数またはM-CHをダイヤルの速度以上にすばやく切り替える機能です。

※SETモードの**「ダイヤルスピード機能の設定」**項目(☞P58)で、**"ON/OFF"**が設定できます。(初期設定：ON)

■キーロック機能の使いかた

不用意に[DIAL]ツマミやキーに触れても、周波数や通信状態が変わらないようにする機能です。

- [FUNC]を押しながら[BAND](TS･LOCK)を長く(約1秒)押すと、キーロック機能を“ON/OFF”します。
  ロック中は、表示部にロック表示“L”が点灯します。

■ EXPAND(拡張機能)SETモードの中の**「キーロック機能の設定」**項目(☞P58)の動作条件を設定できます。

- NORMAL：[▲]/[▼](音量)、[SQL](ATT･SET)を除くキーをロックします。(初期設定値)
- NO SQL：[SQL](ATT･SET)を除くキーをロックします。
- NO VOL：[▲]/[▼](音量)を除くキーをロックします。
- ALL：[▲]/[▼](音量)、[SQL](ATT･SET)を含むキーをロックします。

※どの状態においても、[PWR]キーはロックしません。

■パワーセーブ機能の使いかた

何も操作しない状態(受信もしない)が一定時間続くと、自動的に本機の動作を休止状態にし、電池の消耗を防ぐ機能です。

◆SETモードの**「パワーセーブの設定」**項目(☞P58)で、パワーセーブを設定できます。

- “ON”選択時は、無信号状態が5秒続くと“1：4(125msec：500msec)”、その後も無信号状態が60秒続くと“1：8(125msec：1000msec)”の比率で動作します。
- “OFF”選択時は、パワーセーブが動作しません。

■オートパワーオフ機能の使いかた

このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするための機能です。何も操作しない状態が設定したタイマー時間になると、ビープ音(ピー)が5回鳴って電源が切れます。

■ SETモードの**「オートパワーオフ機能の設定」**項目(☞P59)で時間を設定できます。

- 30/60/90/120分の指定時間がすぎると、電源が自動的に切れます。
  タイマーを1回セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※ 使用しないときは、“OFF”にしておきます。

■工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

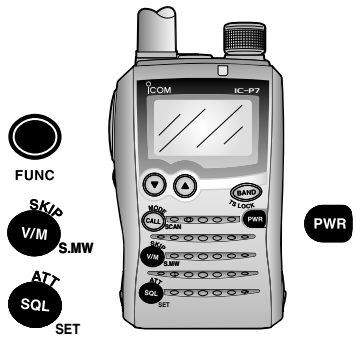
静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作して表示部の表示がおかしくなったときは、リセット操作をしてください。

◆オールリセット操作をすると、設定したすべてのデータを工場出荷時の状態に戻します。
- VFOモード、メモリーモード、VFO周波数、バンド、受信モード(電波型式)、送信モード(電波型式)、チューニングステップ(TS)、メモリーチャンネル(M-CH)、メモリーバンク、TV-CH設定、SETモード、音量設定、スキャンエッジ、スケルチレベルなど

◆パーシャルリセット操作をすると、メモリーチャンネル登録周波数以外の設定データを、工場出荷時の状態に戻します。

◇オールリセットのしかた

① [PWR]を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。
② [FUNC]と[V/M](SKIP・S.MW)と[SQL](ATT・SET)を押しながら[PWR]を長く(約1秒)押して、電源を入れます。
- "CLEAR"表示したあと、初期表示になります。



②の操作のあと、CLEARを表示し、

初期表示になります

◇パーシャルリセットのしかた

① [PWR]を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。
② [FUNC]と[V/M](SKIP・S.MW)を押しながら[PWR]を長く(約1秒)押して、電源を入れます。
- "CLEAR"は表示しません。

②の操作のあと、初期表示になります

■クローニングについて

◆OPC-474クローンケーブルについて

クローニングとは、1台のIC-P7(親機)に設定したメモリーの内容やSETモードの設定内容を、他のIC-P7(子機)に送出して、同じ設定内容にする機能です。

● クローニングのしかた

① IC-P7(親機、子機ともに)の電源を“OFF”にします。

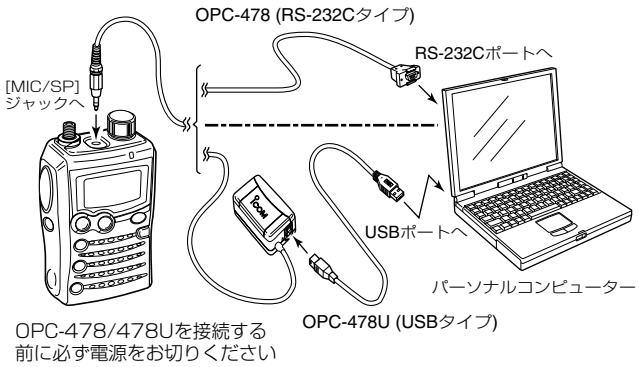
② 子機(クローニング受信側)の操作
[V/M](SKIP·S.MW)を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。

③ 親機(送出側)の操作
[CALL](MODE·SCAN)を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。
“CLONE”と“m”を表示します。

④ 上図のようにOPC-474(別売品)で接続します。
[SQL](ATT·SET)を押します。
“CL OUT”を表示し、設定内容を送出します。(右上図参照)

※ 子機(クローニング受信側)が“CL END”を表示して、クローニングが完了します。

◎ クローニングには左記の本体間クローンの他に、パーソナルコンピューター(PC)でクローンする方法があります。
PCクローニングとしてCS-P7(クローニングソフトウェア：英語版)がありますので、販売店におたずねください。



■故障かな？と思ったら

下表にあげた現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、その現象を具体的にお問い合わせください。

現　　象	原　　因	処　　置	参照
●電源が入らない	◎バッテリーパックの接触不良	◉バッテリーパックの端子を清掃する	P1
	◎バッテリーパックの消耗	◉バッテリーパックを充電する	P2
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている	◉[▲]を押して、音量を設定しなおす	P11
	◎イヤホンを接続している	◉イヤホンのプラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	P8
	◎スケルチがかかりすぎている	◉スケルチレベルを調整する	P12
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート(外部アンテナ使用時)	◉同軸ケーブルを点検して、正常にする	P5
	◎アッテネーターが“ON”になっている	◉アッテネーターを“OFF”にする	P19
●[DIAL]を回すと、音量が変化する	◎反転機能が動作している	◉[FUNC]を押しながら[▲]/[▼]を押して、反転機能を解除する	P21
●[▲]または[▼]を押すと、周波数が変化する	◎反転機能が動作している	◉[FUNC]を押しながら[▲]/[▼]を押して、反転機能を解除する	P21
●周波数の設定ができない	◎キーロック機能が動作している	◉キーロック機能を解除する	P67
	◎メモリーモードになっている	◉VFOモードにする	P17
●周波数の表示が、異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している	◉リセットする	P68
	◎静電気などによる外部要因	◉電池を装着しなおす	P1
●プログラムスキャンが動作しない	◎PROGRAM-CHの“＊＊A”と“＊＊B”に同じ周波数が書き込まれている	◉“＊＊A”と“＊＊B”に違う周波数を書き込む	P37
	◎PROGRAM-CHに2CH以上書き込まれていない	◉2CH以上をM-CHに書き込む	P37
●メモリースキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない	◉[V/M](SKIP･S.MW)を押して、メモリーモードにする	P17
	◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	◉2CH以上をM-CHに書き込む	P43

12 ご参考に

現　　象	原　　因	処　　置	参照
●SETモード中に、設定したい項目にならない	◎EXPANDを“OFF”にしている	◉[EXPAND]を“ON”にする	P58
●送信しない	◎アマチュアバンドからはずれている	◉バンドプランを確認して、周波数を設定し直す	P77、P22
●BC-164の赤点滅	◎指定の温度範囲外で充電している	◉温度範囲内で充電する	P2

■故障のときは

● **保証書について**
保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**
「故障かな？と思ったら(☞P71、72)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● **弊社製品のお問い合わせ先について**
お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記サポートセンターにお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
アイコム株式会社　サポートセンター
06-6792-4949
(平日9：00～12：00、13：00～17：00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

■一般仕様

- **送信周波数範囲**：144.000～146.000MHz
  430.000～440.000MHz
- **受信周波数範囲**：0.495～252.895MHz
  255.100～261.895MHz
  266.100～270.895MHz
  275.100～379.895MHz
  382.100～411.895MHz
  415.100～809.890MHz
  834.100～859.890MHz
  889.100～914.890MHz
  960.100～999.990MHz
- **電波型式**：AM*、FM、WFM* (*受信のみ)
- **使用温度範囲**：－10～＋60℃
- **周波数安定度**：±6PPM以内(－10～＋60℃)
- **周波数分解能**：5、6.25、8.33、9.0、10.0、12.5、15.0、20.0、25.0、30.0、50.0、100.0、200.0kHz
- **メモリーチャンネル数**：1250ch
  (00A～24B：50CH、オートメモリーライト用チャンネル：200chを含む)
- **電源電圧**：DC 3.7V(BP-243×1)
- **低周波負荷インピーダンス**：8Ω
- **接地方式**：マイナス接地
- **アンテナインピーダンス**：50Ω 不平衡 (SMA型)
- **外形寸法**：47(W)×81(H)×28(D)mm
  (突起物を除く)
- **重量**：約160g
  (アンテナ、バッテリーパック含む)

■送信部

- **変調方式**：FMリアクタンス変調
- **最大周波数偏移**：±5kHz
- **マイクロホンインピーダンス**：2kΩ
- **スプリアス発射強度**：

VHF Highパワー時	－60dB以下 (スプリアス領域/帯域外領域)
VHF Lowパワー時	100μW以下 (帯域外領域)
UHF	50μW以下 (スプリアス領域)

- **送信出力/消費電流**：(DC 3.7V時)

BAND	送信出力(High)	消費電流	送信出力(Low)	消費電流
144MHz帯	1.5W	1.5A	約0.1W	約0.4A
430MHz帯	1.0W	1.5A	約0.1W	約0.5A

■受信部

- **受信方式**：ダブルスーパーヘテロダイン
- **中間周波数**：1st IF (AM/FM) ;46.35MHz
  (WFM) ;14.85MHz
  2nd IF; ;450kHz
- **選択度**：AM/FM ;12kHz以上/6dB、30kHz以下/60dB
  WFM ;150kHz以上/10dB、700kHz以下/20dB
- **スプリアス妨害比**：40dB以上
- **低周波出力**：50mW以上(8Ω負荷、10%歪率時)
- **低周波負荷インピーダンス**：8Ω
- **受信消費電流**：最大出力時 ;150mA以下
  受信待ち受け時 ;約80mA
- **スケルチ感度**：－15dBμ以下(スレッシュホールド)

13 定 格

●受 信 感 度：

AM	0.495～4.995MHz	7dBμ以下
10dB S/N	5.000～29.995MHz	3dBμ以下
(1kHz 30% MOD)	118.000～136.995MHz	3dBμ以下
(スプリアスポイントは除く)		
FM	30.000～89.995MHz	−7dBμ以下
12dB SINAD	90.000～143.995MHz	−14dBμ以下
(1kHz 3.5kHz DEV)	144.000～147.995MHz	−15dBμ以下
	148.000～179.995MHz	−14dBμ以下
	350.000～470.000MHz	−15dBμ typ.
	600.000～939.990MHz	3dBμ以下
	940.000～999.990MHz	8dBμ以下
WFM	76.000～107.995MHz	5dBμ以下
12dB SINAD	600.000～799.990MHz	8dBμ以下
(1kHz 52.5kHz DEV)		

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。
※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

■ 急速充電器(BC-164)の定格について

- **名　　称**：BC-164卓上急速充電器
- **定格入力電圧**：AC100V(50/60Hz)
  ※BC-145L入力電圧
- **使用温度範囲**：5～35℃
- **重　　量**：約95g
- **寸　　法**：67(W)×86.5(H)×50(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

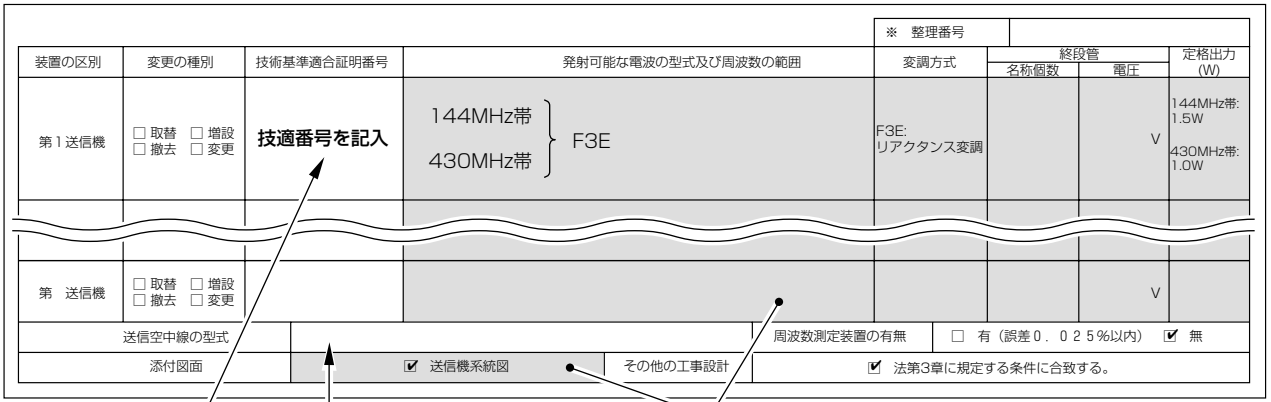
本機は技術基準適合証明を受けた「技適証明送受信機」ですから、免許の申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。

■無線局事項書の書きかた

	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	□ 1.9M	A1A	W	□ 1200M	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 3.5M	□ 3HA □ 4HA □	W	□ 2400M	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 3.8M	□ 3HD □ 4HD □	W	□ 5600M	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 7M	□ 3HA □ 4HA □	W	□ 10.1G	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 10M	□ 2HC □	W	□ 10.4G	□ 3SA □ 4SA □ 3SF □ 4SF □	W
	□ 14M	□ 2HA □	W	□ 24G	□	W
	□ 18M	□ 3HA □	W	□ 47G	□	W
	□ 21M	□ 3HA □ 4HA □	W	□ 75G	□	W
	□ 24M	□ 3HA □ 4HA □	W	□ 77G	□	W
	□ 28M	□ 3VA □ 4VA □ 3VF □ 4VF □	W	□ 135G	□	W
	□ 50M	□ 3VA □ 4VA □ 3VF □ 4VF □	W	□		W
	☑ 144M	□ 3VA □ 4VA □ 3VF ☑ 4VF □	10W	□		W
	☑ 430M	□ 3VA □ 4VA □ 3VF ☑ 4VF □	10W	□4630kHz	A1A	W

14 免許の申請について

■工事設計書の書きかた



				※ 整理番号			
装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称個数	終段管 電圧	定格出力 (W)
第１送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更	**技適番号を記入**	144MHz帯 / 430MHz帯 } F3E	F3E: リアクタンス変調		V	144MHz帯: 1.5W 430MHz帯: 1.0W
第 送信機	□ 取替 □ 増設 □ 撤去 □ 変更					V	
送信空中線の型式				周波数測定装置の有無	□ 有（誤差０．０２５%以内）		☑ 無
添付図面		☑ 送信機系統図	その他の工事設計	☑ 法第3章に規定する条件に合致する。			

本体の側面に、技適証明マークと技適番号シールを貼っています。その番号を記入してください。必ず申請に使用するトランシーバー本体をご確認ください。

移動する局(空中線電力が50W以下の局)は記入の必要はありません。

「技術基準適合証明番号」を記入しているときは、記入する必要はありません。付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブースターなど)を付ける場合は、非適合証明送受信機となりますので、TSS株式会社の保証認定を受ける必要があります。
したがって、網掛け部分に発射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信機系統図を添付して申請してください。
※工事申請書には、一括記載コードではなく、個別の電波型式を記入してください。

◇保証認定の申請について

必要事項を記入した「アマチュア無線局の無線設備の保証願書」を「無線局申請書」に添えて、TSS株式会社に申請してください。

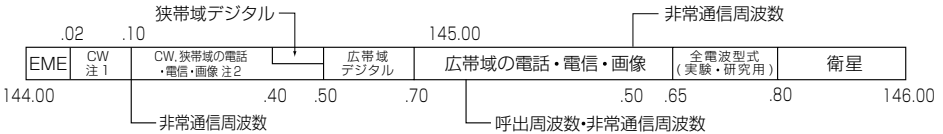
〒112-0011　東京都文京区千石4-22-6　TSS株式会社　保証事業部
TEL：03-5976-6411

14 免許の申請について

■バンドの使用区別(バンドプラン)について

電波を発射するときは、下記の使用区別にしたがって運用してください。
なお、バンドプランは改訂される場合があります。最新の情報はJARLニュースやJARLホームページなどでご確認ください。

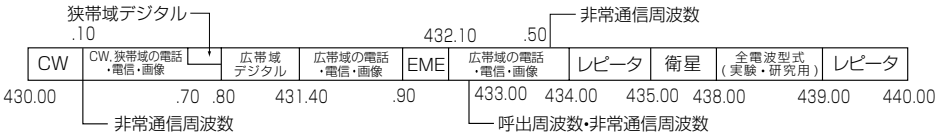
144MHz帯 **周波数：MHz**



【注1】144.02MHzから144.10MHzまでの周波数は、月面反射通信にも使用できる。
この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は6kHz以下のものに限る。
【注2】144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話、電信及び画像通信にも使用することができる。
【注3】DV(デジタル音声)モードを運用するときは、145.65MHzから145.80MHzまでの全電波型式(実験・研究用)の周波数を使用すること。

狭帯域：占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域：6kHzを超える

430MHz帯 **周波数：MHz**



狭帯域：占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域：6kHzを超える

【注1】DV(デジタル音声)モードを運用するときは、438.00MHzから439.00MHzまでの全電波型式(実験・研究用)の周波数を使用すること。

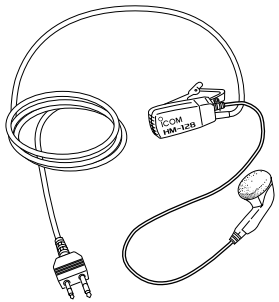
■別売品リスト

バッテリー関係	
BP-243	：バッテリーパック(1800mAh)
BC-164	：急速充電器
BC-145L	：BC-164(卓上急速充電器)用ACアダプター
無線機を保護する	
LC-161	：キャリングケース
マイクロホン/ヘッドセット関係	
HM-153*	：イヤホンマイクロホン
HM-128*	：イヤホンマイクロホン
HM-131*	：小型スピーカーマイクロホン
イヤホン関係	
SP-13*	：イヤホン(φ3.5mm)
ケーブル関係	
CP-21L	：シガレットライターケーブル
OPC-782	：2/1ピンSP/MIC端子変換ケーブル
クローニング関係	
CS-P7	：クローニングソフトウェア(英語版)
OPC-474	：クローニングケーブル(本体間用)
OPC-478	：クローニングケーブル(RS-232Cタイプ)
OPC-478U	：クローニングケーブル(USBタイプ)
その他	
AD-92SMA	：SMA/BNC変換コネクタ

*接続するには、OPC-782が必要です。

◆HM-128(イヤホンマイクロホン)

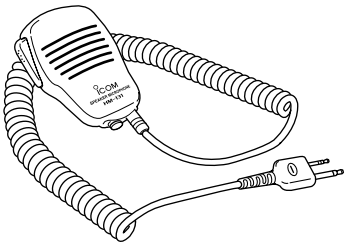
別売品のOPC-782と組み合わせて使用してください。



OPC-782へ

◆HM-131(小型スピーカーマイクロホン)

別売品のOPC-782と組み合わせて使用してください。

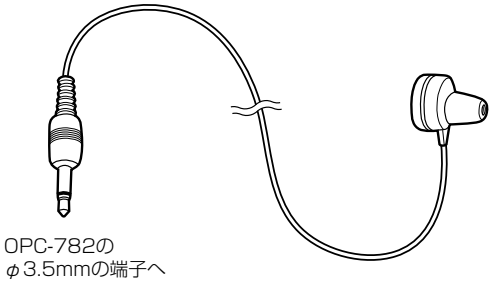


OPC-782へ

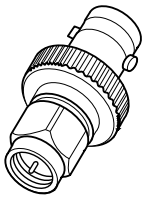
15 別売品について

◆SP-13(イヤホン)

別売品のOPC-782と組み合わせて使用してください。

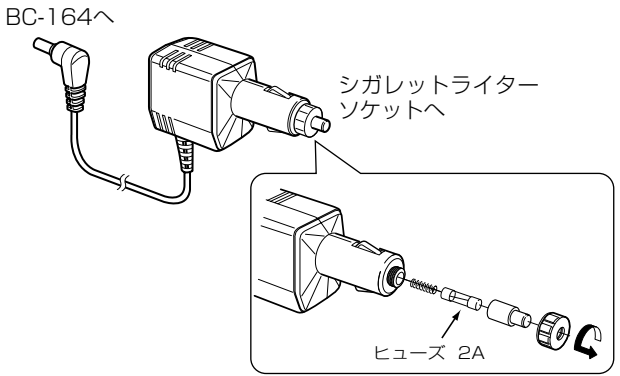


◆AD92SMA(SMA→BNC変換コネクタ)



◆CP-21L(シガレットライターケーブル)

付属品のBC-164と組み合わせて使用してください。
下図のようにヒューズが内蔵されています。
ヒューズの容量：2A



IC-P7

操作ガイド

■音量の調整
- [▲]/[▼]を押して調整します。(押し続けると連続動作)

■スケルチの調整
- [SQL](ATT･SET)を押しながら[DIAL]を回して調整します。

■VFOモードとメモリーモードの切り替え
- [V/M](SKIP･S.MW)を短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

■受信バンドの切り替え
- [BAND](TS･LOCK)を押して、受信バンドを選択します。

  または、[BAND](TS･LOCK)を押しながら[DIAL]を回して、選択します。

  ※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「600M」→「800M」→「TV」→「BC(1M)」と受信バンドが切り替わります。

■周波数の設定
① [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
② [DIAL]を回して、設定します。

■チューニングステップを変える
① [FUNC]を押しながら[BAND](TS･LOCK)を短く押すと、チューニングステップを表示します。
② [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。

■受信モード(電波型式)の設定
- [FUNC]を押しながら[CALL](MODE･SCAN)を短く押すごとに、受信モード(電波型式)が切り替わります。

■キーロック機能の設定
- [FUNC]を押しながら[BAND](TS･LOCK)を長く(約1秒)押すごとに、キーロック機能を"ON/OFF"します。

■オールリセットのしかた
①いったん電源を切ります。
② [FUNC]と[V/M](SKIP･S.MW)と[SQL](ATT･SET)を押しながら[PWR]を長く(約1秒)押して、電源を入れます。("CLEAR"表示したあと、初期表示になります。

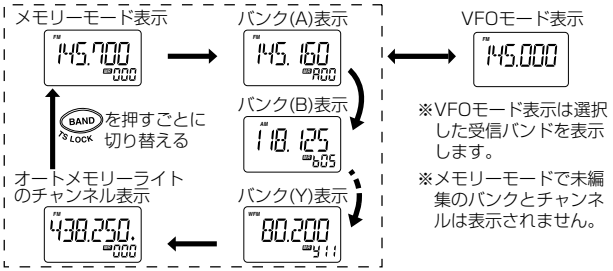
■パーシャルリセットのしかた
①いったん電源を切ります。
② [FUNC]と[V/M](SKIP･S.MW)を押しながら[PWR]を長く(約1秒)押して、電源を入れます。("CLEAR"は表示しません。)

■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた
① [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [DIAL]を回します。

■M-CHへの書き込みかた
① [V/M](SKIP･S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
② [BAND](TS･LOCK)を短く押して、受信するバンドを選びます。
③ [DIAL]を回して、周波数を設定にします。
④ [V/M](SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)
⑤ [DIAL]を回して、M-CHを選択します。
※"VF"を選ぶとVFO、"00A/00B～24A/24B"を選ぶとPROGRAM-CHに書き込めます。
⑥ [V/M](SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押すと、設定した周波数を選択したM-CHに書き込みます。

■メモリーモード時の表示切り替えについて
メモリーモード時に[BAND](TS･LOCK)を押すごとに、「メモリーモード」→「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」と表示と切り替えます。
※または、[BAND](TS･LOCK)を押しながら[DIAL]を回します。

●メモリーモードの表示切り替え



■メモリー内容を消去する
①メモリーモードまたはVFOモードを選択して、[V/M](SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。
③ [CALL](MODE･SCAN)を数回押して、"CLEAR"項目を選択します。
④ [V/M](SKIP･S.MW)を長く(約1秒)押すと、メモリー内容を消去します。
⑤消去後、[V/M](SKIP･S.MW)を短く押します。

切り取り線

■ SETモードの設定
① [FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を長く(約1秒)押します。(設定項目を表示します。)
② [DIAL]を回して、設定したい項目を選択します。
表示は約1秒後、設定内容表示に変わります。
③ 設定内容が表示されます。
④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
⑤ [SQL](ATT・SET)を短く押すと、SETモードを解除します。

■ VFOスキャン
① [V/M](SKIP・S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
※スキップスキャンを選択するときは、[FUNC]を押しながら[V/M](SKIP・S.MW)を短く押して、“ *P SKIP* ”表示を点灯させます。
再度、同じ操作を行うと“ *P SKIP* ”表示が消灯します。
② [CALL](MODE・SCAN)を押しながら[DIAL]を回して、スキャン範囲“ALL(フルスキャン)”/“BAND(バンドスキャン)”/“PROG 0～24(プログラムスキャン)”を選びます。
③ 選択後、[CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に[BAND](TS・LOCK)を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
④ [CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、スキャンを解除します。

■ オートメモリーライトスキャン
① [V/M](SKIP・S.MW)を短く押して、VFOモードにします。
② [CALL](MODE・SCAN)を押しながら[DIAL]を回して、スキャン範囲“ALL(フルスキャン)”/“BAND(バンドスキャン)”/“PROG 0～24(プログラムスキャン)”を選びます。
③ 選択後、[CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、スキャンを開始します。
④ [V/M](SKIP・S.MW)を短く押すと、“ MR ”表示が点滅して、オートメモリーライトスキャン動作となります。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトスキャンへの切り替えはできません。
※再度、押すとオートメモリーライトスキャンを解除します。
⑤ 信号を受信すると、5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(◆000)に書き込みます。
(書き込み時ビープ音が“ピッピッ”と鳴ります。)
書き込みが終わると自動的に再スタートします。
※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ビープ音を“ピー”と鳴らしてスキャンを解除します。
※スキャン中に[BAND](TS・LOCK)を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
⑥ [CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、スキャンを解除します。

■ メモリースキャン
① [V/M](SKIP・S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND](TS・LOCK)を押して、メモリーモード表示を選択します。
③ [CALL](MODE・SCAN)を押しながら[DIAL]を回して、「ALL(フルバンクスキャン)」または「BANK(バンクスキャン)」を選択します。
④ [CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、メモリースキャンを開始します。
⑤ [CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、スキャンを解除します。

■ メモリーバンクスキャンの操作
① [V/M](SKIP・S.MW)を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND](TS・LOCK)を押して、バンク表示を選択します。
③ [CALL](MODE・SCAN)を押しながら[DIAL]を回して、「ALL(フルバンクスキャン)」または「BANK(バンクスキャン)」を選択します。
※なお、バンクスキャン中に[BAND](TS・LOCK)を押して、バンクを切り替えることができます。
④ 選択後、[CALL](MODE・SCAN)を短く押すと、フルバンクスキャンまたはバンクスキャンを開始します。
⑤ [CALL](MODE・SCAN)を押すと、フルバンクスキャンまたはバンクスキャンを解除します。

■ スキップ機能の設定
※ [FUNC]を押しながら[V/M S.MW]を短く押すごとに、“*SKIP* ” →“*PSKIP* ” →“消灯”(解除)と表示が切り替わります。

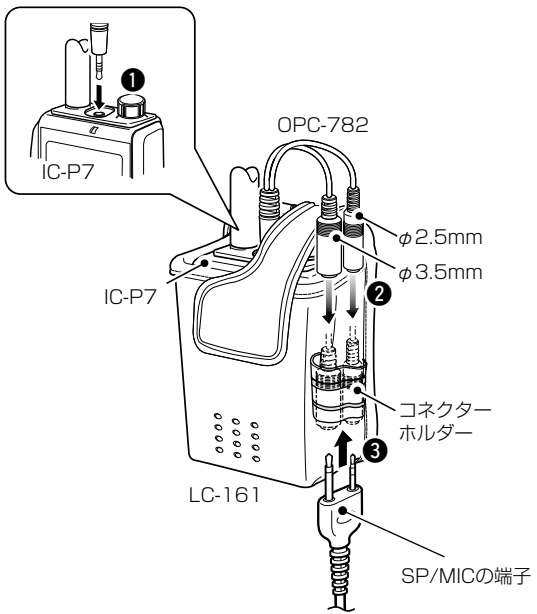
■ VFOモード時
- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、設定している周波数ステップで周波数をアップまたはダウンします。(初期設定値/1MHzステップ)
- [FUNC]を押しながら[▲]または[▼]を短く押すと、[DIAL]と[▲] / [▼]に割り当てている機能を反転します。(反転機能動作時は“*VOL*”表示が点灯します。)
- [FUNC]を押しながら[SQL](ATT・SET)を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を“ON/OFF”します。

■ メモリーモード時
- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。
- [FUNC]を押しながら[BAND]を押すと、「メモリーモード」→「B NAME(バンクネーム)」→「M NAME(メモリーネーム)」→「CH-000(チャンネル表示)」と表示を切り替えます。

■ TV(テレビ)モード時
- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、すべてのTV-CH(1～62)を選択します。

◆LC-161(キャリングケース)

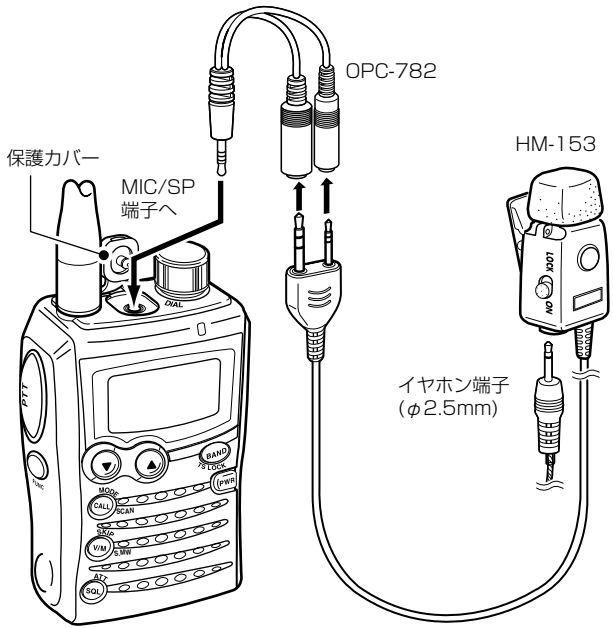
別売品のOPC-782と組み合わせて使用できます。
下図のようにLC-161の左横のコネクターホルダーにOPC-782を通すことにより、コネクター部分を固定できます。



◆HM-153(イヤホンマイクロホン)

別売品のOPC-782と下図のように組み合わせて使用してください。

ご注意：保護カバーをはずしてから接続してください。
接続しないときは保護カバーを取り付けてください。



高品質がテーマです。

A-6466H-1J-②
Printed in Japan
© 2005–2008 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32